

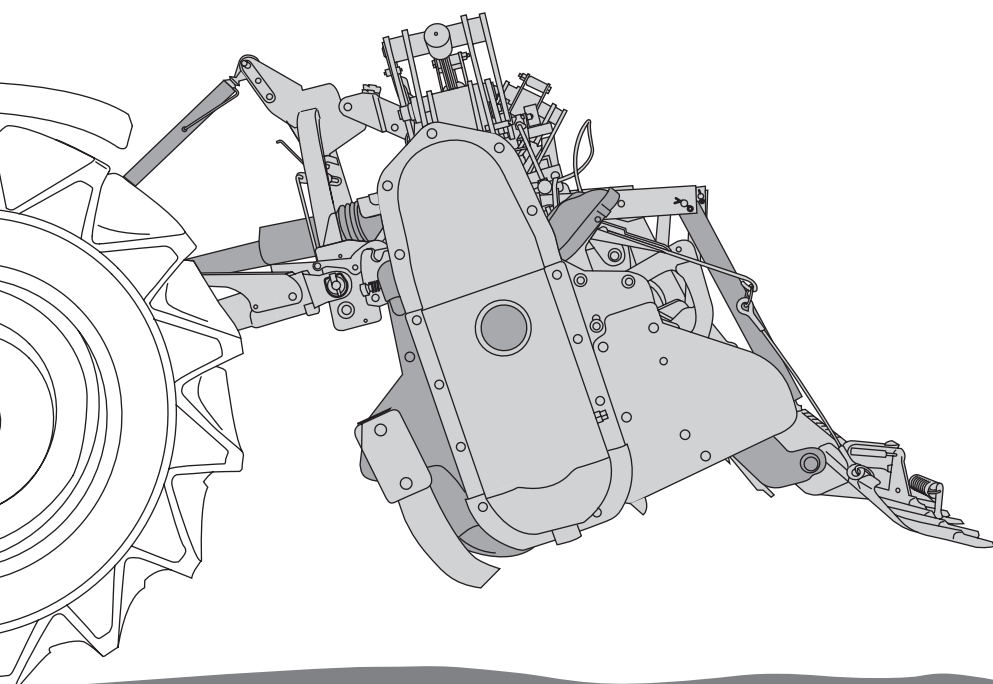
ニプロ

ウイングハロー

WLS 4200BR/5000BR/5500BR
シリーズ

◎ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みになり、使用後は大切に保管してください。

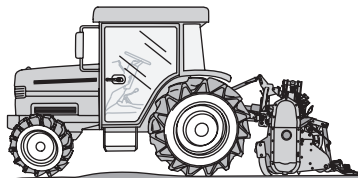
◎取扱説明書は、必ず使用される方へお渡しください。



Niplo

取扱説明書

- 1 安全について
- 2 概要と各部の名称
- 3 解梱と組立て
- 4 取付ける前に
- 5 取付けについて
- 6 調整について
- 7 作業前の点検
- 8 移動・ほ場への出入りと作業
- 9 トラクタからの取外し
- 10 保守・点検
- 11 格納について
- 12 保証とサービスについて
- 13 用語と解説



はじめに

このたびは、ニプロウィングハローをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の取扱方法や操作手順、使用上の注意事項等を説明したものです。ご使用前に必ずよく読み十分理解されてから、正しくお取扱ください。

使用目的・用途について

- 本ウィングハロー（以下作業機と記す）は、トラクタに取付け、水田の代かき作業に使用してください。使用目的以外の作業には、決して使わないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象になりません。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

国外への持ち出し（輸出）について

- 本作業機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。本作業機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

安全対策について

- 当社は、この作業機に関する危険をすべて予測することができません。また、取扱説明書や警告ラベルでその危険をすべて伝えることができません。したがって、作業機の運転、保守作業については、一般的に求められる安全対策の配慮が必要です。
- この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「1.3 安全に作業をするために」（2 ページ）を記載しています。ご使用前に必ず読み、理解してください。

廃棄処理に関する注意事項

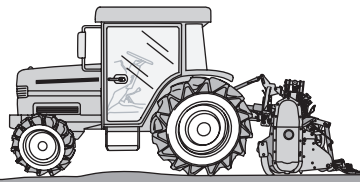
- 本作業機や消耗部品の廃棄については、各地方の条例に従ってください。

本書の取扱いおよびお問い合わせ

- この取扱説明書は、当社の著作物です。無断でこの取扱説明書のすべて、もしくは部分的に関わらず、当社の同意なしに複製・複製をすることを禁じます。
- 品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合には、本書の内容およびイラスト等の一部が本作業機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- お読みになった後は、必ず作業機の近くに保管し、必要になった時に読めるようにしてください。
- 作業機を他人に貸したり、譲り渡される場合は、この取扱説明書を作業機に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、すみやかに買い上げいただきました販売店・農協へご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、買い上げいただきました販売店・農協へご相談ください。

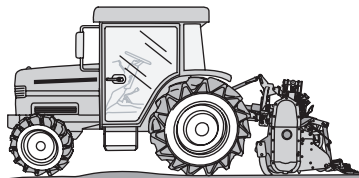
型式と区分について

- この取扱説明書では、型式・区分の異なる作業機を併記しています。お買い上げいただいた作業機の型式・区分を、作業機に貼付してあるネームプレートで確認し（「1.4 警告ラベルの種類と位置」（7 ページ）を参照）、該当箇所をお読みください。



目次

はじめに	i	8.4.3 操作ボックスと作業機をつなぎ方	31
目次	1	8.5 コネクターの取扱い	32
1 安全について		8.6 リモコンの操作	32
1.1 警告文の定義	2	8.7 電源入/切操作	33
1.2 その他の注意補足等	2	8.8 外部油圧取出口と油圧ホースの接続	33
1.3 安全に作業をするために	2	8.9 ウィングハローの開閉	34
1.3.1 一般的な注意事項	2	8.9.1 閉じる場合	35
1.3.2 点検・整備の注意事項	4	8.9.2 開く場合	35
1.3.3 作業時の注意事項	5	8.9.3 片側開閉の場合	36
1.3.4 格納時の注意事項	6	8.10 土引き・代かきの切替	37
1.4 警告ラベルの種類と位置	7	8.10.1 土引きをする場合	37
2 概要と各部の名称		8.10.2 土引きを解除する場合	37
2.1 概要	8	8.11 サイドレーキの開閉	37
2.2 トラクタとの関係	8	8.11.1 サイドレーキを開く場合	38
2.3 主要諸元	9	8.11.2 サイドレーキを閉じる場合	38
2.4 各部の名称	11	8.12 作業のしかた	38
3 解梱と組立て		8.12.1 ほ場の高低を修正	38
3.1 梱包品の確認	11	8.12.2 外周代かき作業(1回目)	39
3.2 解梱、組立て	12	8.12.3 中央部代かき作業	39
3.2.1 作業機を吊り上げる場合	13	8.12.4 田植方向の直角に作業(2回目)	39
4 取付ける前に		8.12.5 外周の仕上げ	40
4.1 トラクタの規格	13	8.13 作業のポイント	40
4.2 トラクタの準備	14	8.14 上手な作業のしかた	41
4.2.1 4L/3L/0L	14	8.14.1 作業速度	41
4.3 装着姿勢	14	8.14.2 PTO回転速度	41
4.4 カブラの準備	15	8.14.3 逆転PTOについて	41
5 取付けについて		8.14.4 作業深さの調節	41
5.1 取付けに関する注意	15	8.14.5 レーキ可変機構(ガススプリングの調整)	41
5.2 カブラ	16	8.14.6 均平板可変機構(サポートレバーの調整)	42
5.2.1 取付け方法	16	8.15 左右・片側および中央代かき作業の場合	43
5.2.2 装着の順序	18	9 トラクタからの取外し	
5.2.3 持ち上げ時の注意	21		44
5.3 ジョイント	21	10 保守・点検	
5.3.1 取付け方法	21	10.1 ボルト・ナットのゆるみ点検	48
5.3.2 切断方法	25	10.2 ジョイントの給油	48
6 調整について		10.3 オイル量の点検と交換	48
6.1 トラクタとの調整	25	10.4 グリースの補充	49
6.1.1 調整に関する注意事項	25	10.5 ガススプリングの取扱い	51
6.1.2 チェックチェーンの調整	25	10.5.1 取扱上の注意	51
6.1.3 前後角度調整	26	10.5.2 廃却方法	51
6.1.4 水平調整	26	10.6 代かき爪について	52
6.1.5 「最上げ」位置の調節	26	10.7 代かき爪の交換	52
7 作業前の点検		10.8 代かき爪配列図	53
	26	10.9 点検整備チェックリスト	54
8 移動・ほ場への出入りと作業		10.10 異常と処置一覧表	55
8.1 移動・ほ場への出入りと作業に関する注意	27	11 格納について	
8.2 移動のしかた	28		56
8.3 ほ場への出入り	28	12 保証とサービスについて	
8.4 リモコンの配線のしかた	28	12.1 保証について	56
8.4.1 電源取出しのしかた(バッテリー直結)	29	12.2 アフターサービスについて	56
8.4.2 バッテリーケーブルと本体ハーネスをつなぎ方	31	12.3 補修部品と供給年限について	56
		13 用語と解説	
			57






1 安全について

1.1 警告文の定義

この取扱説明書で使用している表示を以下に示します。
危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。
表示の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

◆表示の説明

 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあるものを示します。

1.2 その他の注意補足等



◆注意補足の説明

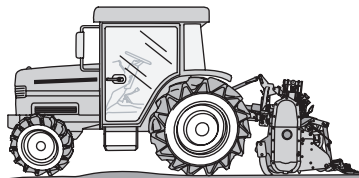
注意	その警告文に従わなかった場合、作業機やトラクタの破損、故障のおそれがあるものを示します。
環境	環境保護のために知っておいていただきたいことや、守っていただきたいことを記載しています。
注記	知っておくと役に立つ情報や、便利なこと等を示します。

1.3 安全に作業をするために

ここに記載している警告文を守らないと、死亡・傷害事故や、作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。よく読んで、作業を行う場合は十分注意してください。

1.3.1 一般的な注意事項

 警告	
こんなときは運転しない	
<ul style="list-style-type: none">● 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき● 酒を飲んだとき● 妊娠しているとき● 18歳未満の人	
【守らないと】傷害事故をまねくおそれがあります。	



⚠ 警告

作業に適した服装をする

ヘルメット・すべり止めのついた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。

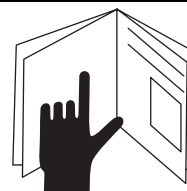
【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれたり、すべって転倒するおそれがあります。



本作業機を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を必ず読むように指導してください。

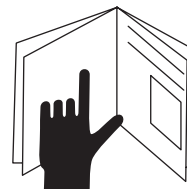
【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。



本作業機を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

本作業機と一緒に取扱説明書を渡し、必ず読むように指導してください。

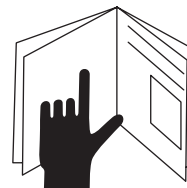
【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。



トラクタに作業機を装着するときは、必ずトラクタの取扱説明書を読む

トラクタに作業機を装着する前に、必ずトラクタの取扱説明書を読み、よく理解してから作業機の装着をしてください。

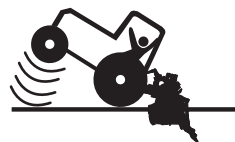
【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



重量バランスの調整をする

トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、トラクタメーカー純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。



⚠ 注意

公道の走行は作業機装着禁止

トラクタで公道を走行する場合は必ず、作業機を取外して走行してください。

【守らないと】道路運送車両法違反となるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。



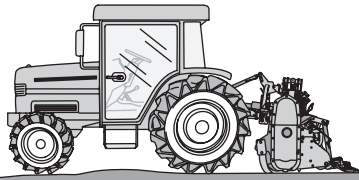
作業機の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象になりません。

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。





1.3.2 点検・整備の注意事項

⚠ 危険

バッテリー点検のときは火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気を近づけないでください。

【守らないと】バッテリーに引火し、爆発してヤケド等を引き起こすおそれがあります。



バッテリー液は体につけない

バッテリー液を体や衣服につけないようにしてください。

万一ついてしまったときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】衣服が破れたり、ヤケドをするおそれがあります。



⚠ 警告

点検・整備は平らで安定した場所で行う

交通の邪魔にならず安全で、作業機やトラクタが倒れたり、動いたりしない平らで安定した場所で、点検・整備をしてください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



電気部品・コードを必ず点検する

配線コード・ハーネスが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを作業前に点検してください。

【守らないと】ショートして、火災事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

点検・整備をする

作業機やトラクタを使う前と後には必ず点検・整備をしてください。

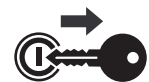
【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



点検・整備中はエンジンを停止する

点検・整備・修理、または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。

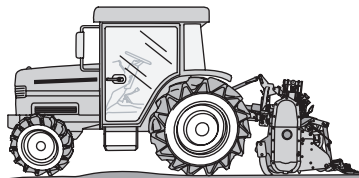


カバー類は必ず取付ける

装着のときや、点検・整備で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。





⚠ 注意

目的に合った工具を正しく使用する

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

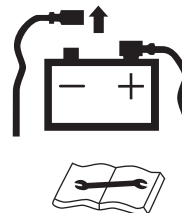
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



バッテリーへの取付け・取外しは正しい順序で行う

バッテリーへ接続するときはプラス側を先に付け、取外すときはマイナス側から外します。

【守らないと】ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。



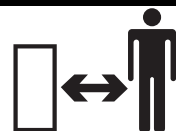
1.3.3 作業時の注意事項

⚠ 警告

トラクタと作業機の周りに人（特に子供）を近づけない

トラクタの周りや作業機との間に人を入れしないでください。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



作業機の着脱は平らな場所で行う

作業機の着脱は、平らで固い場所で行ってください。

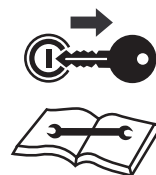
【守らないと】下敷きになったり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機やトラクタに巻き付いた草やワラを取るときはエンジンを停止する

作業部分に草やワラが巻き付いたときは、必ずエンジンを停止させ、回転が止まってから、巻き付きを外してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



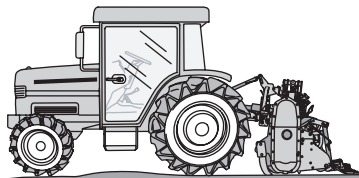
傾斜地では、ゆっくり大きく回る

傾斜地での高速・急旋回は、転倒のおそれがあります。

トラクタの速度を落とし、大きく回ってください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。





⚠ 警告

作業機の落下防止をする

作業機の落下を防止するため、油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

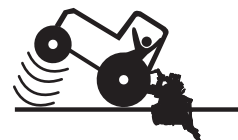
【守らないと】死亡事故や傷害事故を負うおそれがあります。



アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かさないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さのめやすは荷台高さの4倍以上です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。

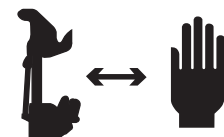


⚠ 注意

カブラのハンドルには絶対に手をふれない

作業機の装着・取外しのとき以外は、絶対にカブラのハンドルには手をふれないでください。

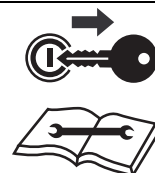
【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



作業機の調整はエンジンを停止して行う

作業機の調整をするときは、作業機を下げ、トラクタの駐車ブレーキをかけます。エンジンを停止してから行ってください。

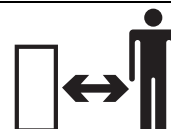
【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。



旋回るときは、後ろに注意する

作業機は上側へ折りたたみます。周りの人や物に対して注意して旋回してください。

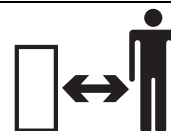
【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながります。



開くとき、閉じるときは周りに注意する

作業機の開閉時は、周りの人や物に対して注意して操作してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながります。



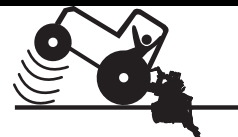
1.3.4 格納時の注意事項

⚠ 注意

作業機単体の転倒防止をする

スタンドを必ず付け、転倒防止をしてください。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。

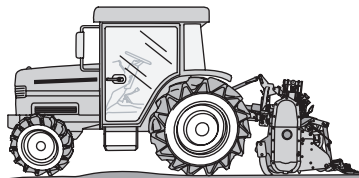


格納時はカブラを外す

格納するときは、必ずカブラを作業機から外し、地面に置きます。カブラのハンドル操作を間違えると落下します。

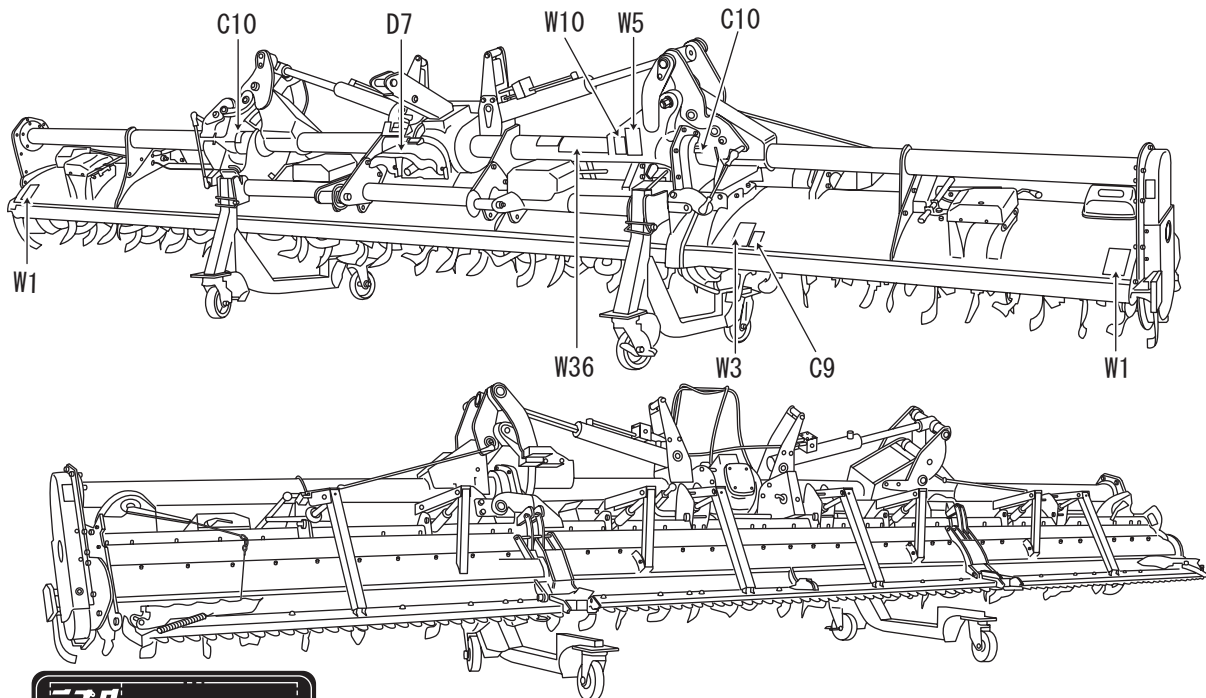
【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。





1.4 警告ラベルの種類と位置

- 警告ラベルは図の位置に貼ってあります。よくお読みになり安全に作業をしてください。
- 警告ラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 警告ラベルを紛失または破損された場合には、お買い上げいただいた販売店、または農協へ下記型式、および部品番号で注文してください。



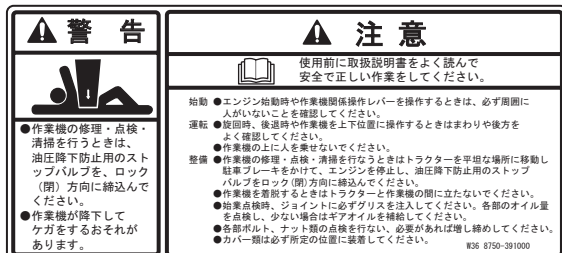
ニトロ	
型式	
区分	
製造元 松山株式会社	
製造番号	

ネームプレート

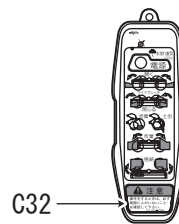
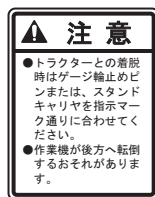
W1 8750-316000



W36 8750-391000



C9 8750-339000



C32 8750-38900



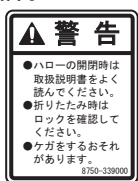
W3 8750-326000



W5 8750-322000



W10 8750-339000



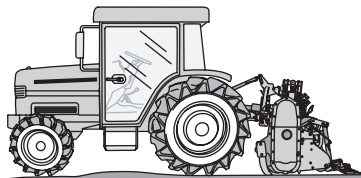
C10 8750-337000



D7

8750-344000



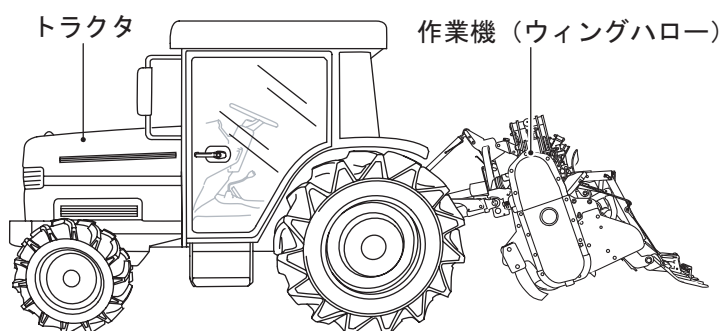


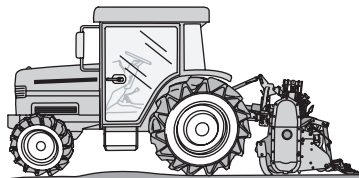
2 概要と各部の名称

2.1 概要

- 本作業機は、水田の代かき作業に使用してください。
- 本作業機は、日農工統一規格「日農工標準3点オートヒッチ」、「標準3点リンク 2点オートヒッチ」で設計しています。他の規格では装着ができません。
- 本作業機は、決められた適応馬力で設計しています。適応トラクタ馬力の範囲内で使用してください。

2.2 トラクタとの関係





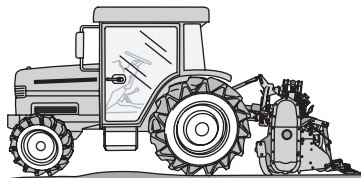
2.3 主要諸元

型式・区分		WLS4200BR			WLS5000BR			WLS5500BR		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
代かき部開閉方式		トラクタ油圧取出し 油圧シリンダ								
土引き部作動方式		電動モータ駆動								
駆動方式		サイドドライブ 軸駆動								
機体寸法	全長 (mm)	930								
	全幅 (mm)	4435 (2445)			5245 (2445)			5700 (2445)		
	全高 (mm)	1010								
機体質量 (kg)		890	885	825	940	935	875	970	965	905
適応トラクタ {kW(ps)}		44.1~103.0 (60~140)			58.8~103.0 (80~140)					
装着方式	種類	日農工標準 3点オートヒッチ JIS1.2 型								
	カプラの型式	EL-43		—	EL-43		—	EL-43		—
	呼称	4セット	3セット	0セット	4セット	3セット	0セット	4セット	3セット	0セット
ジョイント型式		CRCV-Z	CR-CV	—	CRCV-Z	CR-CV	—	CRCV-Z	CR-CV	—
作業幅 (cm)		420			501.5			547		
耕深調節方法		トラクタ油圧ポジションコントロール								
標準作業速度 (km/h)		2~5								
代かき軸回転数 (rpm)		277 (PTO 540rpm 時)								
代かき軸変速方式		なし (トラクタ PTO 変速 500~710rpm)								
回転外径 (cm)		38								
代かき爪取付方法		ホルダータイプ								
代かき爪本数		E205G L・R 各 48 本 E205G BL・BR 各 3 本			E205G L・R 各 60 本 E205G BL・BR 各 3 本			E205G L・R 各 66 本 E205G BL・BR 各 3 本		
作業能率 (分/10a)		4~9			3~8			3~7		

※ 全幅 () 内は格納時の状態です。

本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

キャスター付スタンド装着時には、機体質量が 40 Kg 増になります。

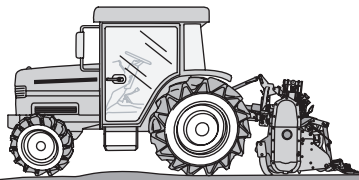


型式・区分		WLS4200BR	WLS5000BR	WLS5500BR
		-2L	-2L	-2L
代かき部開閉方式		トラクタ油圧取出し 油圧シリンダ		
土引き部作動方式		電動モータ駆動		
駆動方式		サイドドライブ 軸駆動		
機体寸法	全長 (mm)	1155		
	全幅 (mm)	4435 (2445)	5245 (2445)	5700 (2445)
	全高 (mm)	1015		
機体質量 (kg)		865	915	945
適応トラクタ {kW (ps)}		44.1~103.0 (60~140)	58.8~103.0 (80~140)	
装着方式	種類	標準3点リンク 2点オートヒッチ		
	カプラの型式	ローワーピンフレーム2		
	呼称	2セット		
ジョイント型式		CR		
作業幅 (cm)		420	501.5	547
耕深調節方法		トラクタ油圧ポジションコントロール		
標準作業速度 (km/h)		2~5		
代かき軸回転数 (rpm)		277 (PTO 540rpm 時)		
代かき軸変速方式		なし (トラクタ PTO 変速 500~710rpm)		
回転外径 (cm)		38		
代かき爪取付方法		ホルダータイプ		
代かき爪本数		E205G L・R 各 48 本 E205G BL・BR 各 3 本	E205G L・R 各 60 本 E205G BL・BR 各 3 本	E205G L・R 各 66 本 E205G BL・BR 各 3 本
作業能率 (分/10a)		4~9	3~8	3~7

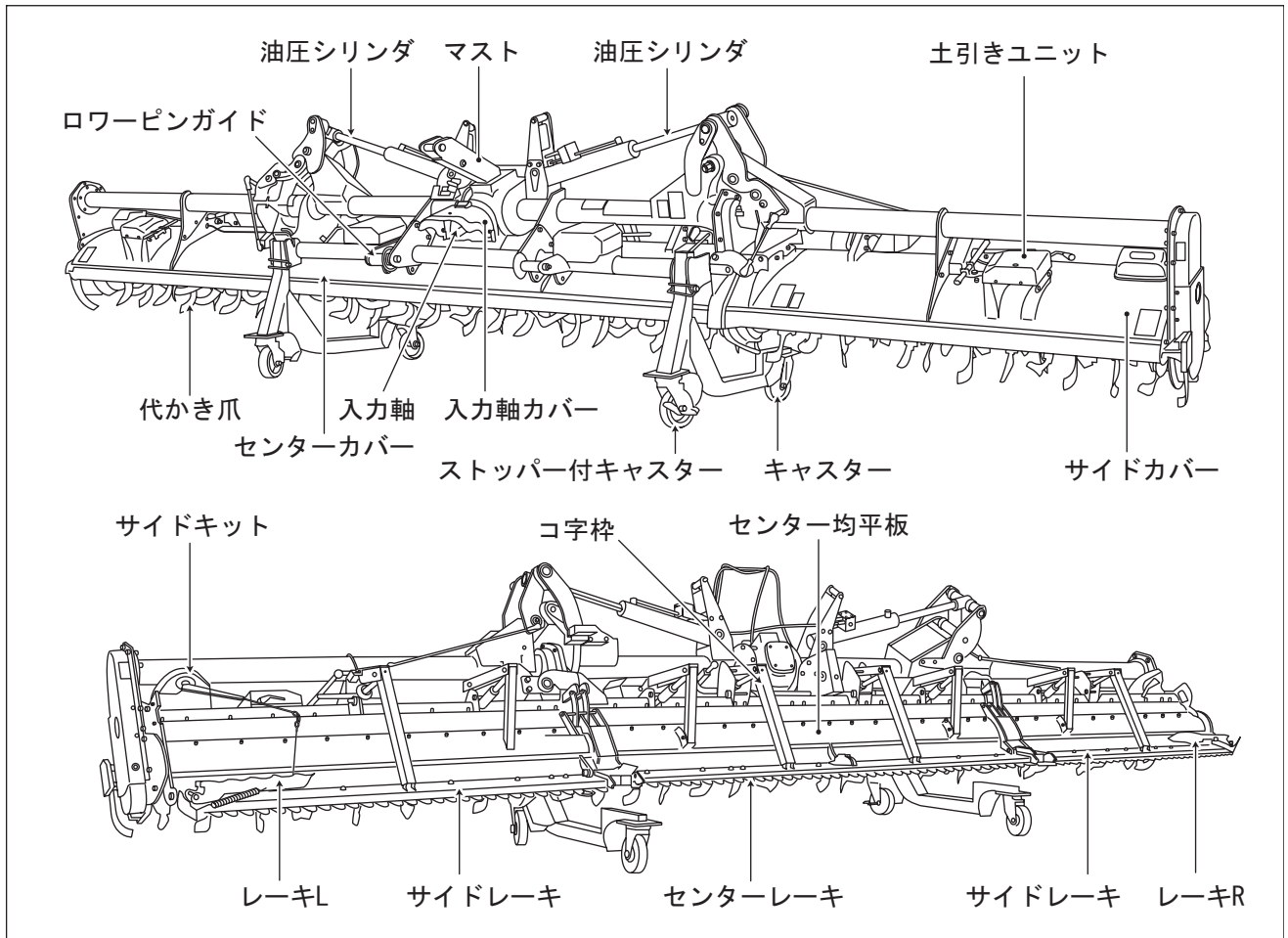
※ 全幅 () 内は格納時の状態です。

本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

キャスター付スタンド装着時には、機体質量が 40 Kg 増になります。



2.4 各部の名称



3 解梱と組立て

3.1 梱包品の確認

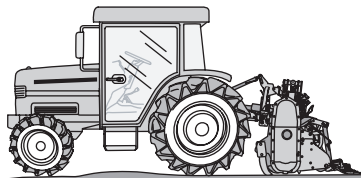
⚠️ 注意

- 梱包を解梱するときは、まわりの人や物に注意してください。
- 鉄棒の「パイプのフック、鉄棒の突起部」等には十分注意してください。

【守らないと】「パイプのフック、鉄棒の突起部」や鉄棒でケガをすることがあります。

1組ごとに厳重な検査をしたうえで出荷していますが、輸送中の破損、物品の欠品、およびその他の異常の可能性も皆無ではありません。右の事項も含めて確認してください。もし、問題があった場合はお買い上げの農協、販売店へ連絡してください。

確認箇所	確認方法
ご注文の品物かどうか	ネームプレートで確認
ネームプレート、警告ラベルが剥がれていないか	目視による外観チェック
破損はないか	目視による外観チェック
スタンド、ダンボール箱、取扱説明書、保証書	目視による外観チェック



3.2 解梱、組立て

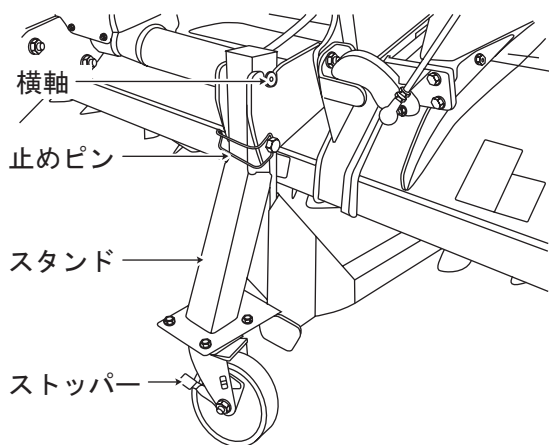
1 梱包用ビニールをはがし、番線等を取外します。

2 スタンドを梱包より取外します。

注 記

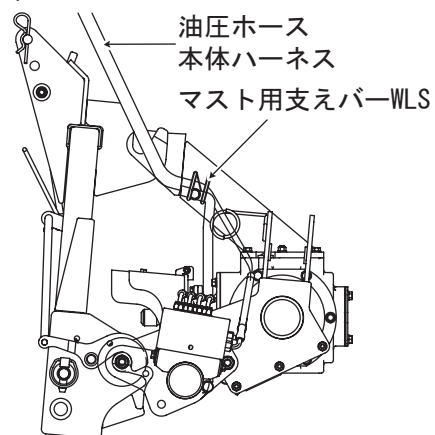
- ・ 作業機を吊り上げる場合は、「3.2.1 作業機を吊り上げる場合」を参照してください。

3 スタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止めピンを挿して固定します。

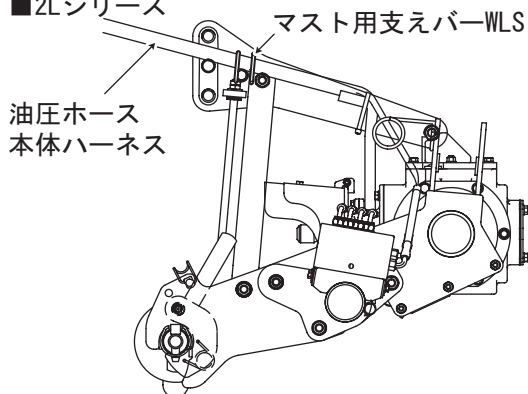


4 マスト用支えバーWLS の輪の中に油圧ホースと本体ハーネスを通します。

■4L、3Lシリーズ



■2Lシリーズ

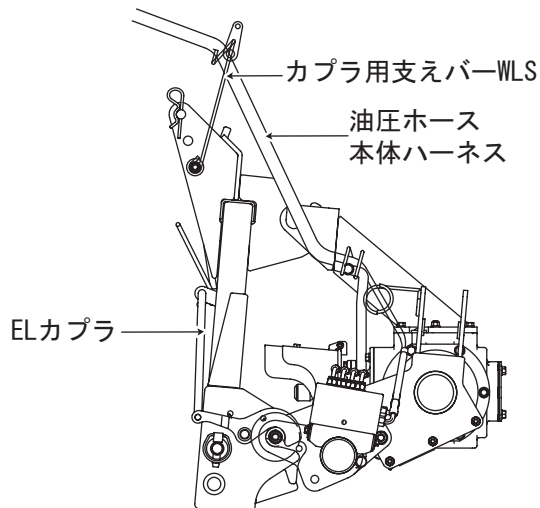


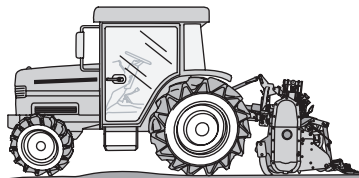
5 EL カプラにカプラ用支えバーWLS を取付けます。

油圧ホースと本体ハーネスを輪の中に通します。(4L、3L シリーズのみ)

注 記

- ・ 2L シリーズにはカプラ用支えバーWLS は不用です。





3.2.1 作業機を吊り上げる場合

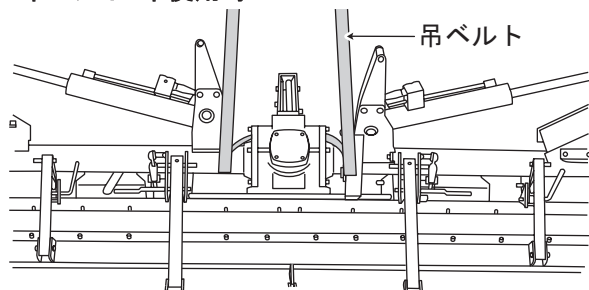
スタンドの取付等、作業機を吊り上げる場合は、下図場所を吊ベルトで吊り上げてください。

注 記

- ・ 吊り上げる際は、ハーネス・油圧ホース等に無理な力がかからないように気をつけてください。

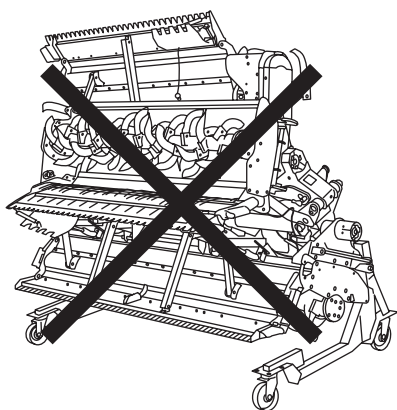
◆ハローが開いている場合

吊ベルト2本使用時



注意

- ・ スタンドを取付けた状態では、作業機をトラック等に積んでの移動は行わないでください。スタンドが曲がるおそれがあります。



注 記

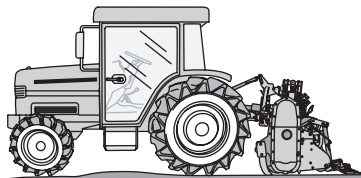
- ・ やむを得ずスタンドを取付けた状態で作業機をトラック等に積み込む時は、ウイングハローを必ず広げてください。

4 取付ける前に

4.1 トラクタの規格

- (a) 作業機の3点リンク装着システムは、日農工統一規格「日農工標準3点オートヒッチ」、「標準3点リンク 2点オートヒッチ」を採用しています。
- (b) 「日農工標準3点オートヒッチ」はさらに4セット、3セット、0セットと3種類に分かれます。
- 「4セット」 3点リンクとジョイントが同時に自動装着できます。
- 「3セット」 3点リンクのみが自動装着でジョイントは手で取付けます。
- 「0セット」 すでにお手持ちの4セットシリーズ作業機と共用するため、カプラ、およびジョイントは標準装備していません。
- 「2セット」 左右ローワーリンク2点のみが自動装着で、トップリンクとジョイントを手で取付けます。
- (c) 3点リンク装着規格の判別は、型式の末尾で判断してください。

形式末尾	3点リンク規格	呼称
-4L	日農工標準3点オートヒッチ	4セット
-3L	JIS 1.2 兼用	3セット
-0L	EL カプラ	0セット
-2L	標準3点リンク2点オートヒッチ	2セット

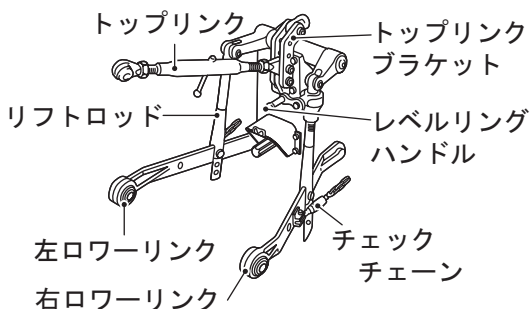


4.2 トラクタの準備

⚠ 注意

トラクタの取扱説明書「3点リンクの規格」をよく読んでください。

【守らないと】取付けができなかったり、ケガや作業機やトラクタの損傷の原因になります。



4.2.1 4L/3L/OL

- (a) カプラは「標準3点リンク規格」です。トラクタの3点リンクも標準3点リンクでないと装着できません。
- (b) 特殊3点リンク規格の場合は、特殊3点リンク用トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の物に交換してください。両側にねじの付いた物で長、短の調整のできる物を使用してください。リフトロッドの位置は、ロワーリンクの前穴に取付けます。
- (c) 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して、調整してください。
上の穴は上がり量が増えます。
下の穴は下がり量が増えます。

4.3 装着姿勢

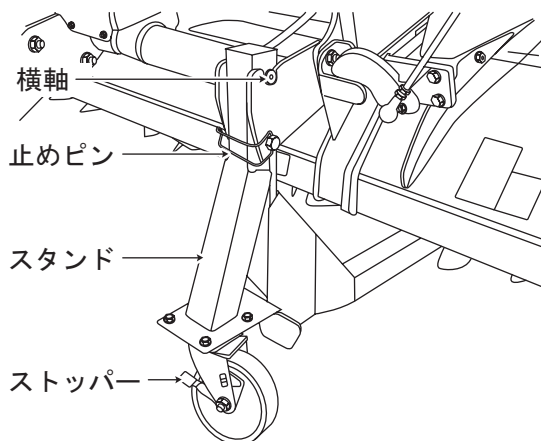
カプラで装着できるように、作業機の姿勢を調節します。

⚠ 警告

作業機の装着は、平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながります。

- 1 スタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止めピンを挿して固定します。



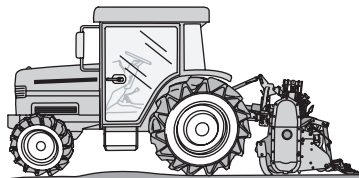
注 記

- ・ キャスターを取外すと、装着が困難になります。
- ・ キャスターは2種類あります。ストッパー付きのキャスターを前側にストッパーなしのキャスターを後側に組付けます。

⚠ 注意

スタンドを取付けた状態では、作業機をトラック等に積んでの移動は行わないでください。

【守らないと】スタンドを曲げるおそれがあります。



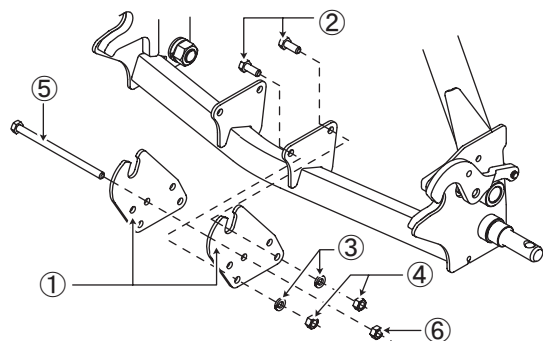
4.4 カプラの準備

4セットの場合はジョイントのダンボール箱に入っている、サポートプレートと EL カプラ用ボルト (M12×200 7T) を次図のように取付けます。

注 記

- 3セットの場合、サポートプレートは付いていません。

◆EL カプラ



⑤は開き止めを兼用しているため、組付け後わずかに回転すること。

番号	部品名	数量
①	サポートプレート	2
②	ボルト M12×30 7T	4
③	ばね座金 M12	4
④	ナット M12	4
⑤	ボルト M12×200 7T	1
⑥	センターロックナット M12	1
EL51 サポートプレート ASSY		部品番号 R510 901000

5 取付けについて

5.1 取付けに関する注意

⚠ 警告

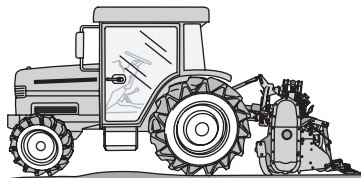
- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 作業機の装着は平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 作業機の装着をするときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
- 重い作業機を装着したときは、トラクタメーカー純正のバランスウェイトを付け、バランス調整をしてください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
- PTO クラッチを切り、トラクタのエンジンを必ず停止して取付けをしてください。
- 必ず、リンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】取付けができなかったり、ケガにつながるおそれがあります。また、作業機やトラクタの損傷の原因になります。



5.2 カブラ

5.2.1 取付け方法

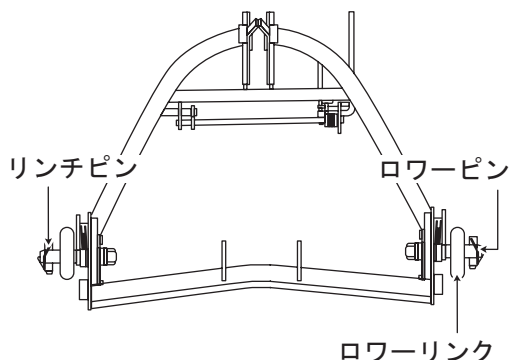
◆4 セットの取付方法

- 1** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ローリンクを最下げにします。



- 2** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止させます。

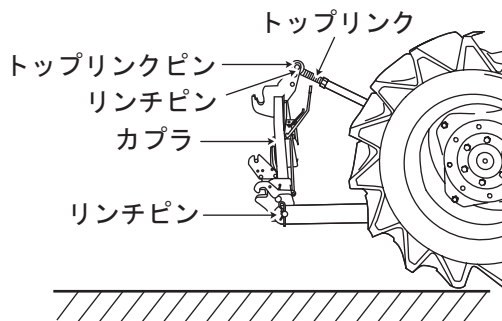
- 3** 左右のローリンクをカブラのローリンクに取付けます。必ず、リンチピンで抜け止めをしてください。



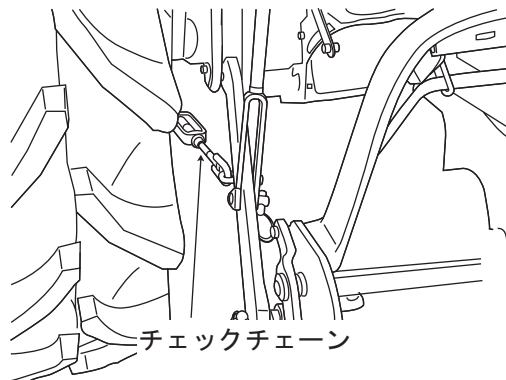
- 4** トップリンクピン（トラクタ付属）で、カブラをトラクタのトップリンクに取付けます。必ず、リンチピンで抜け止めをしてください。

注 記

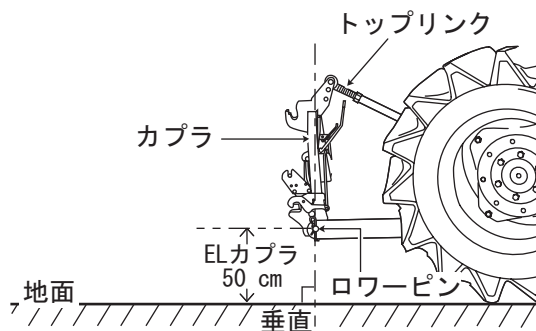
- ・ トップリンクの取付け位置は横からトップリンクを見て、トラクタ側を下側に、カブラ側を上側に取付けます。

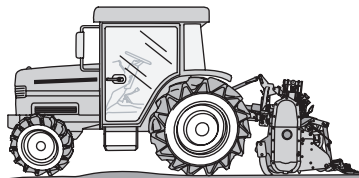


- 5** トラクタの中心に合わせ、左右均等に 10～20mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。



- 6** トップリンクの長さは、ローリンクの地上高が下図のとき、カブラが垂直になるように調整します。



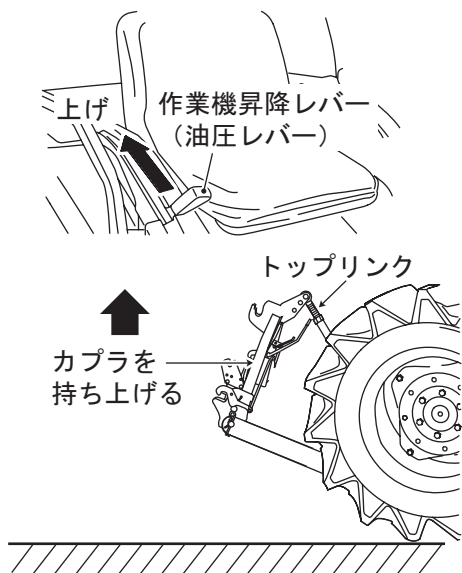


7 取付け終了後、トラクタのエンジンを始動します（エンジン回転数は低くする）。

8 作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ゆっくりと上げ、トップリンク等が干渉しないことを確認します。

注 記

- ・ トラクタのエンジン回転数が高いと、急に作業機が上がる場合があります。注意してください。
- ・ 干渉する場合は、トップリンクをトラクタ側は1個ずつ上に、また、作業機側は1個ずつ下に取付けると、少しずつ上がり量が少なくなります。



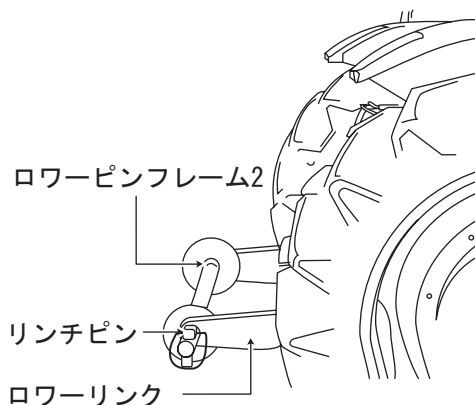
◆2 セットの取付方法

1 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ローリンクを最下げにします。

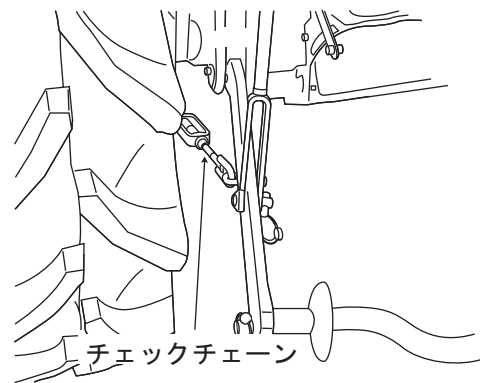


2 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止させます。

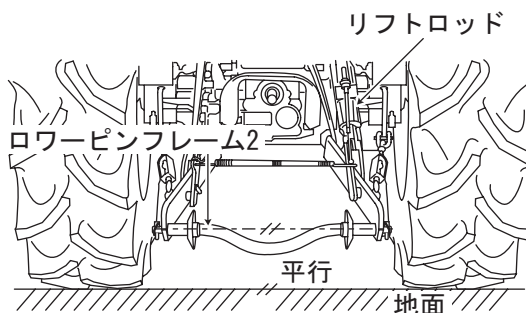
3 左右のローリンクにローピンフレーム2を取付けます。必ず、リンチピンで抜け止めをしてください。

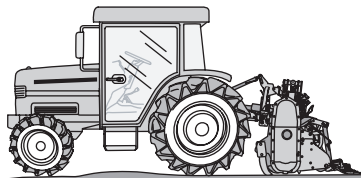


4 トラクタの中心に合わせて、左右均等に 10~20mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。



5 ローピンフレーム2がトラクタと平行になるようにリフトロッドで調整します。



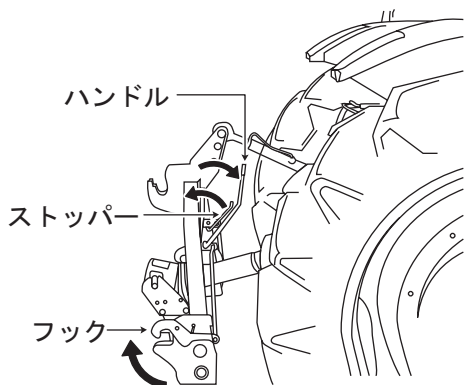


5.2.2 装着の順序

ここでは、4セットを中心に説明します。4セットと3セットの違いは、ジョイントが自動装着か、手で付けるかの違いです。

◆4セットの場合

- 1** ストッパーを引き上げてロックを解除し、ハンドルを引いてフックを着脱の状態にします。

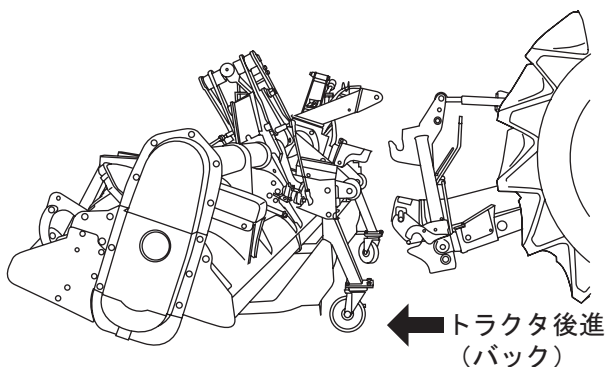


⚠ 注意

装着・取外しするとき以外は、絶対にカブラのハンドルに手をふれないでください。

【守らないと】誤操作で作業機が外れ、傷害事故や機械の損傷の原因になります。

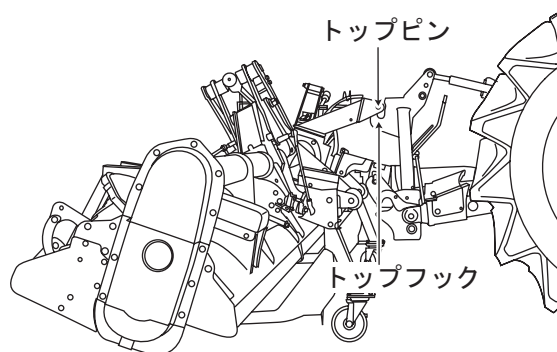
- 2** トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐバックします。



- 3** トラクタの油圧を下げて、カブラのトップフックを作業機のトップピンの下へくぐらせます。トラクタと作業機が合うまで繰り返してください。

注 記

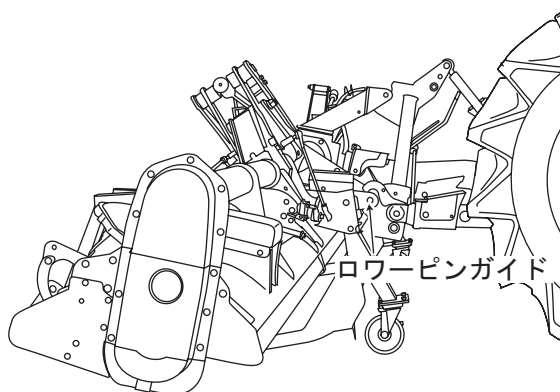
- ・ 合わせづらいときは、キャスター付スタンドで合わせるのも1つの方法です。

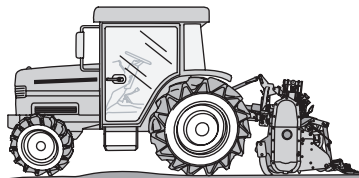


- 4** ゆっくりトラクタの油圧を上げて、トップフックでトップピンをすくい上げます。



作業機のローピンガイドがカブラに入ります。4セットの場合は、同時にジョイントが自動装着されます。



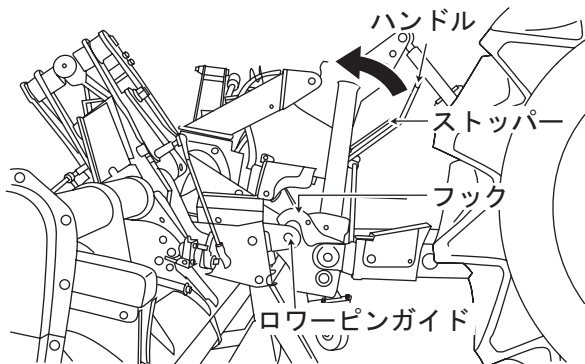


注 記

- ・ フックが当たったり、ジョイントが入らない場合は、トラクタの油圧を下げて作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから装着してください。

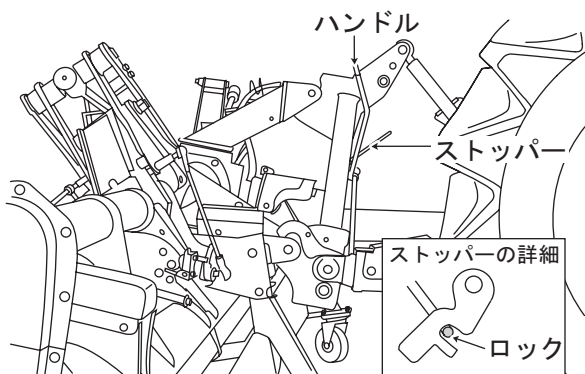
5

ハンドルを押し、フックで確実に固定されているか、必ず確認します。



6

ストッパーをロック位置にし、ハンドルを確実に固定します。



⚠ 注意

装着・取外しのとき以外は、必ずストッパーをかけ、ハンドルをロックしてください。

【守らないと】誤操作で作業機が外れ、傷害事故や機械の損傷の原因になります。

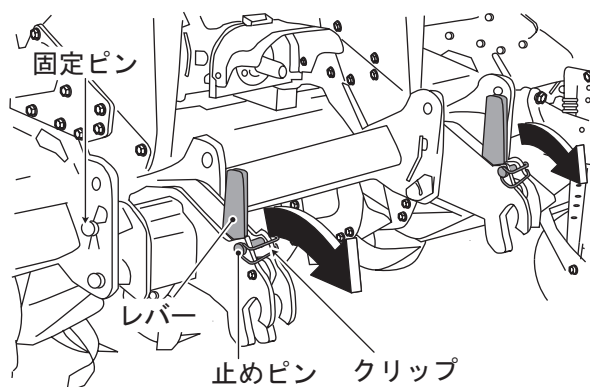
◆2セットの場合

注 記

- ・ 「◆2セットの場合」の作業機（イラスト）はロータリです。
- ・ 固定ピンが下図の位置に挿入されているか確認します。

1

クリップを起こし、止めピン（2個）を取外します。レバーを手前に倒します。



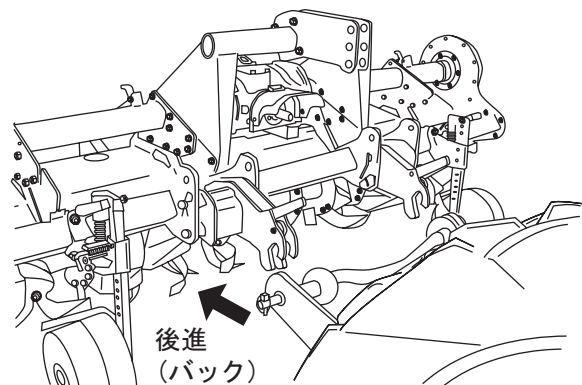
⚠ 注意

装着・取外しのとき以外は、絶対に作業機のレバーに手をふれないでください。

【守らないと】誤操作で作業機が外れ、傷害事故や機械の損傷の原因になります。

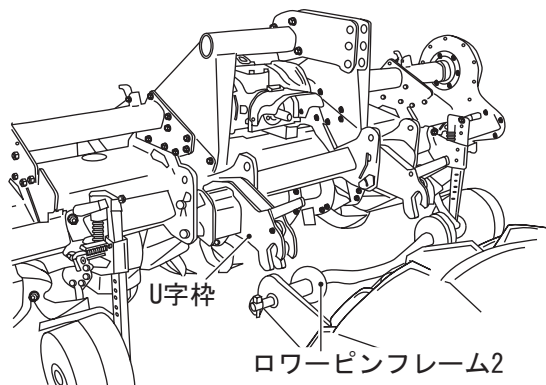
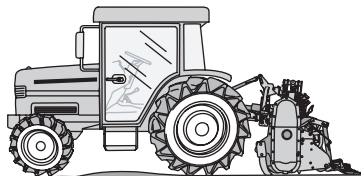
2

トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐバックします。



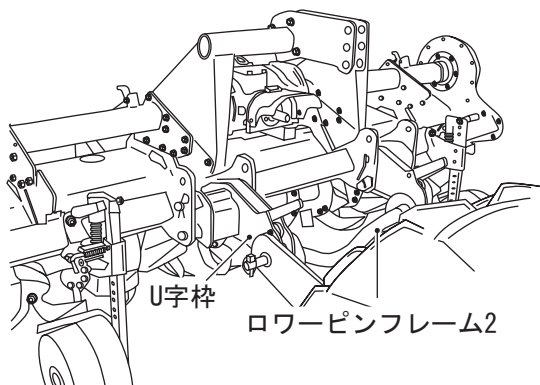
3

トラクタの油圧を下げて、ローワーピンフレーム2を左右のU字枠の下へくぐらせます。トラクタと作業機の中心が合うまで繰り返してください。



4

ゆっくりトラクタの油圧を上げて、ローワーピンフレーム2でU字枠をすくい上げます。ゲージ輪が地面より10~20 mm 浮くようにしてください。

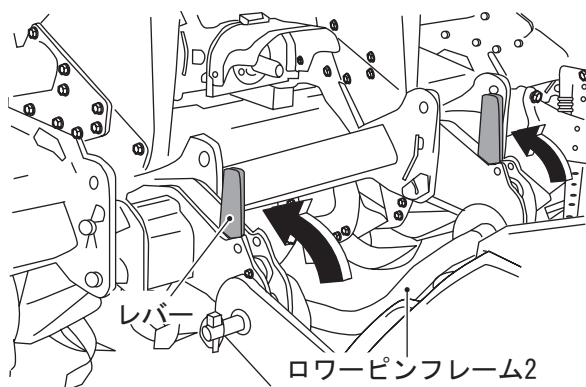


注 記

- ・ U字枠が当る場合は、トラクタの油圧を下げて作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカプラの傾きを合わせてから装着してください。

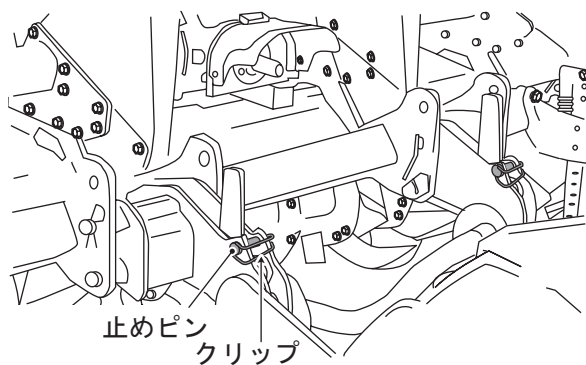
5

レバーを後方へ倒し、フックでローワーピンフレーム2を固定します。確実に固定されているか確認します。



6

止めピン (2個) を挿し、クリップを倒して抜け止めをします。レバーがロックされます。



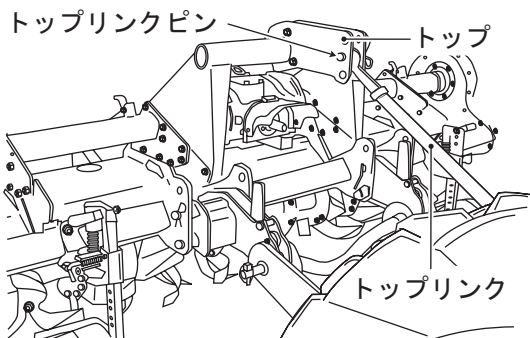
⚠ 注意

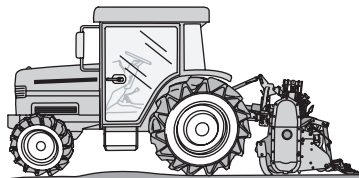
装着・取外しのとき以外は、必ず止めピンをかけ、レバーをロックしてください。

【守らないと】誤操作で作業機が外れ、傷害事故や機械の損傷の原因になります。

7

トラクタのトップリンクで作業機のトップを連結し、トップリンクピンで固定します。





5.2.3 持ち上げ時の注意

⚠ 注意

トラクタの取扱説明書「3点リンク、および油圧関係」をよく読んでください。

【守らないと】機械の損傷やケガの原因となります。

- (a) トラクタへ装着したときは、「最上げ」時にトラクタと作業機がぶつからないように、油圧をゆっくり上げながら確認します。特にキャビン付きトラクタの場合は、背面のガラスを突き上げないように注意してください。
- (b) トラクタにより、スイッチで「最上げ」まで自動上昇する機種があります。作業機が勢いよく上がるため、トラクタと作業機との間隔を 100 mm 以上開けるように、上げ規制をしてください。
- (c) トップリンクやロワーリンクの取付穴位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合には、調整をやり直してください。
- (d) リフトロッドの長さを調節して、作業機の左右を水平に調節してください。

5.3 ジョイント

注意

- ・ 長すぎるジョイント、短いジョイントを装着しないでください。

長すぎるとトラクタの PTO 軸が作業機の入力軸を突きます。短いと、ジョイントのかみ合いが少なくなり破損する原因になります。

ジョイントの長さは、装着するトラクタの型式により異なります。ご注文時にトラクタの型式をお知らせいただければ、その型式に適応したジョイントが付属されます。型式が不明の場合は標準の長さの物が付属されます。

5.3.1 取付け方法

⚠ 危険

取外したトラクタの PTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて傷害事故の原因になります。

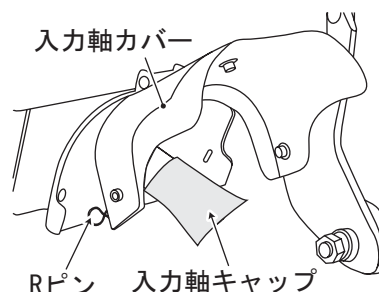
⚠ 注意

PTO クラッチを切り、トラクタのエンジンを必ず停止させ、ジョイントの取付をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながります。

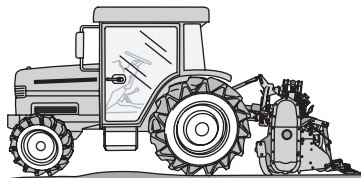
入力軸カバーを外さなくても、ジョイントは取付けられます。取付け、取外し点検するときは、右側 1 箇所の R ピンを抜き、上げます。

入力軸カバーは、上向きになります。3 セットの場合、ジョイントを取付け、取外しのときには上向きにしてください。



注 記

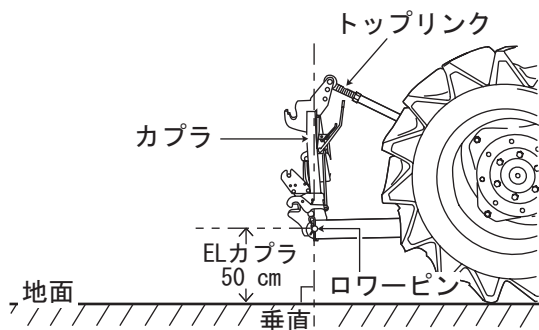
- ・ 出荷時に入力軸に入力軸キャップが取付けてあります。装着時には必ず取外してください。



◆4L シリーズ

1 3点リンクにカプラを取付け、装着の姿勢にトップリnkの長さを合わせます。カプラの取付け方法は、「5 取付けについて」(15 ページ)を参照してください。

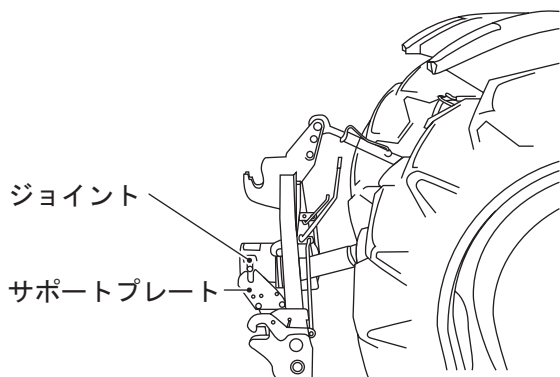
2 トップリnkの長さは、ローピンを地上高が下図のとき、カプラが垂直になるように調節します。



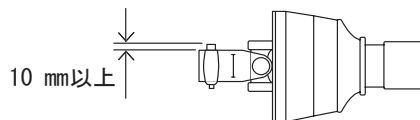
3 ジョイントをサポートプレートの上ののせ、ロックピンを押しながら、トラクタ側 (PTO 軸) に取付けます。

注意

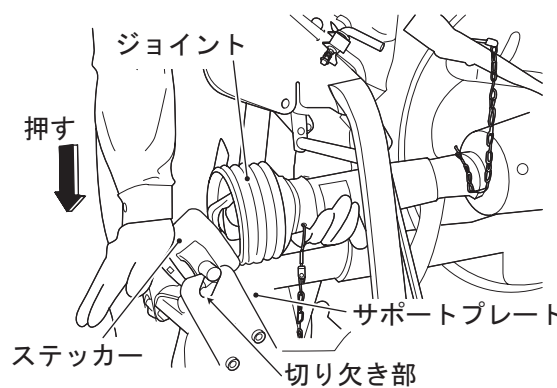
- ハンマー等でジョイントをたたき、強引に入れないでください。
ジョイントを破損させる原因になります。



4 ジョイント取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認します。また、ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



5 ステッカー面を上にして、ジョイントを折りながらサポートプレートの切り欠き部に押し込みます。



⚠ 注意

手の位置は図の位置とし、手をはさまないように注意してください。

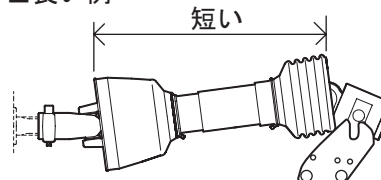
【守らないと】ケガをするおそれがあります。

注意

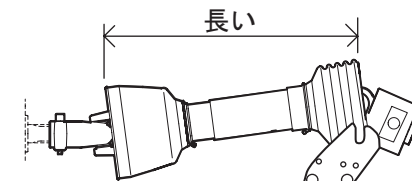
- ジョイントが長くてサポートプレートに取付けできないときは、無理に取付けしないでください。長いときは、切断して使用してください。トラクタ、作業機を破損させる原因になります。

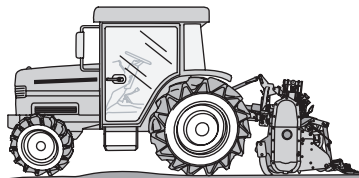
CRCV-Z用

■ 良い例



■ 悪い例 (長いときは、切断してください)





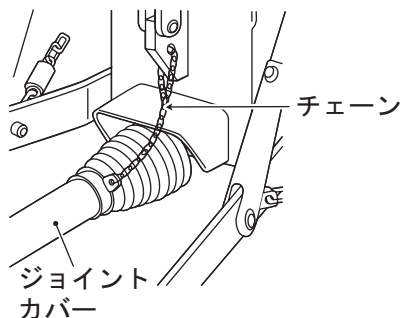
6 ジョイントの使える長さは、次表の範囲内で使用してください。

注 記

- ・ 最少ラップ (オス、メスの重なり) は、CRCV-Z で 88 mm 確保しています。

種類	ジョイント型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
4L	CRCV-Z752	750	750~836
	Z802	800	800~936
	Z852	850	850~1036
	Z902	900	900~1136
	Z952	950	950~1236

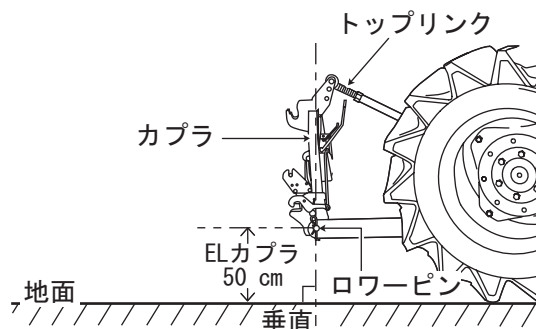
7 ジョイントカバーのチェーンを、トラクタの3点リンクが上下しても動かない場所につなぎます。3点リンクを上下しても引っ張られないようにたるみを持たせませす。



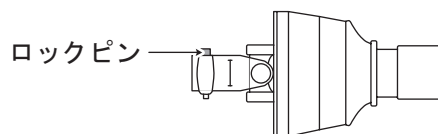
◆3L シリーズ

1 3点リンクにカプラを取付け、装着の姿勢にトップリnkの長さを合わせます。カプラの取付け方法は、「5 取付けについて」(15 ページ) を参照してください。

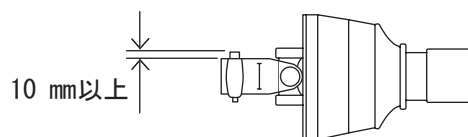
2 トップリnkの長さは、ローワーピンの地上高が下図のとき、カプラが垂直になるように調節します。



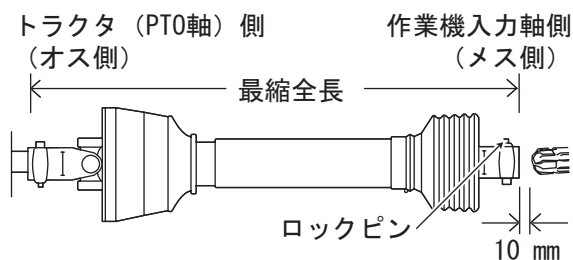
3 トラクタ側 (PTO 軸) に、ロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。



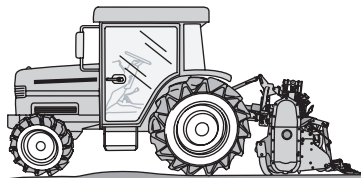
4 ジョイント取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認します。また、ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



5 ジョイントをいっぱい縮め、ジョイント (メス側) の先端と入力軸との間に 10 mm ほど間隔があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。間隔がない場合は、長い分を切断します。

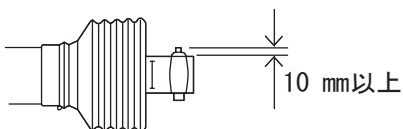


右のスキマが 10 mm くらいが良い。長いときは、切断してください。



6

ジョイント取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認します。また、ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



7

ジョイントの使える長さは、次表の範囲内で使用してください。

注 記

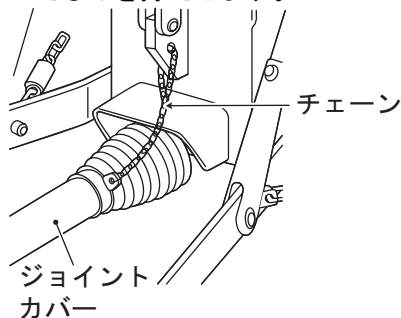
- ・ 最少ラップ（オス、メスの重なり）は CRCV で 88 mm 確保しています。

種類	ジョイント型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
3L	CRCV-2	706	704~785
	760	756	759~895
	3	806	809~995
	4	906	909~1195

8

ジョイントカバーのチェーンを、トラクタの 3 点リンクが上下しても動かない場所につなぎます。

3 点リンクを上下しても引っ張られないようにたるみを持たせます。



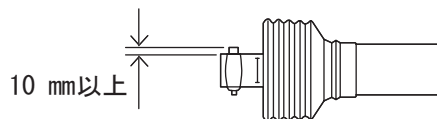
◆2L シリーズ

1

ローリンクにローピンフレーム 2 を取付けます。ローピンフレーム 2 の取付け方法は、「5 取付けについて」(15 ページ) を参照してください。

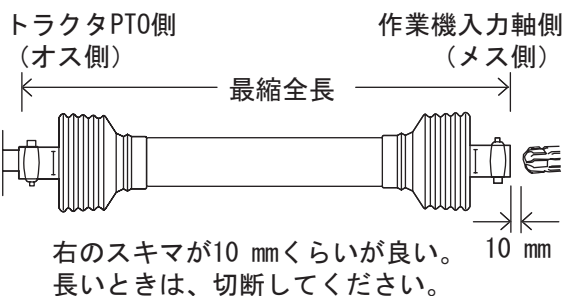
2

トラクタ側 (PTO 軸) に、ロックピンを押しながらかめ込み、取付けます。取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。また、ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



3

ジョイントをいっぱい縮め、ジョイントの先端と作業機入力軸 (メス側) との間に 10 mm ほど間隔があれば、そのままロックピンを押しながらかめ込み、取付けます。取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。また、ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。間隔がない場合は、長い分を切断します。



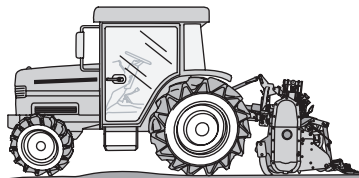
4

ジョイントの使える長さは、次表の範囲内で使用してください。

注 記

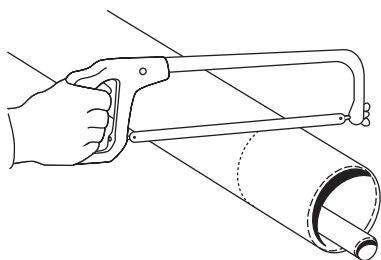
- ・ 最少ラップ（オス、メスの重なり）は 86 mm 確保しています。

種類	ジョイント型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
2L	CR-2	714	714~904
	CR-3	814	814~1104
	4	914	914~1304
	5	1014	1014~1504

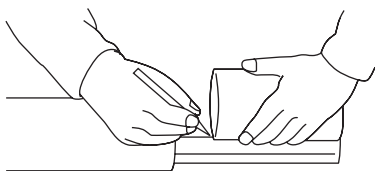


5.3.2 切断方法

- 1** 長い分だけジョイントカバーをオス・メス両方切り取ります。



- 2** 切り取ったジョイントカバーと同じ長さを、シャフトの先端から測ります。

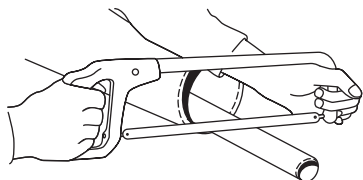


- 3** シャフトを高速カッタか金ノコでオス、メス両方切断します。

⚠ 注意

高速カッタを使用するときは、十分注意して、作業を行ってください。

【守らないと】高速カッタは回転が速く、ケガをするおそれがあります。



- 4** 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、グリースを塗り、オス、メスを組合わせます。

6 調整について

6.1 トラクタとの調整

6.1.1 調整に関する注意事項

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 作業機の調整をするときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してから行ってください。

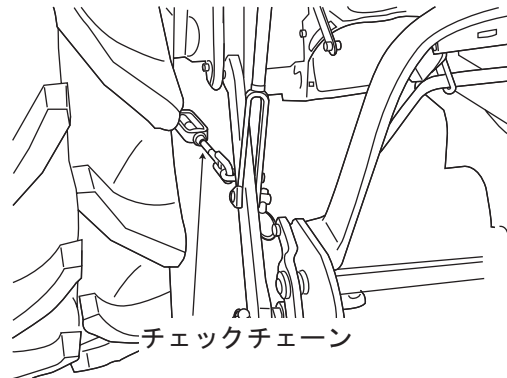
【守らないと】死亡事故や傷害事故の原因になります。

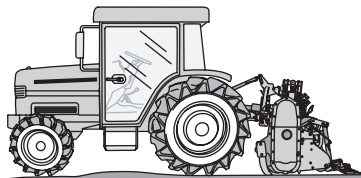
6.1.2 チェックチェーンの調整

トラクタの中心（PTO 軸）と作業機の中心（入力軸）を一直線に合わせ、左右均等に 10~20 mm 振れるように、チェックチェーンを張ります。

注 記

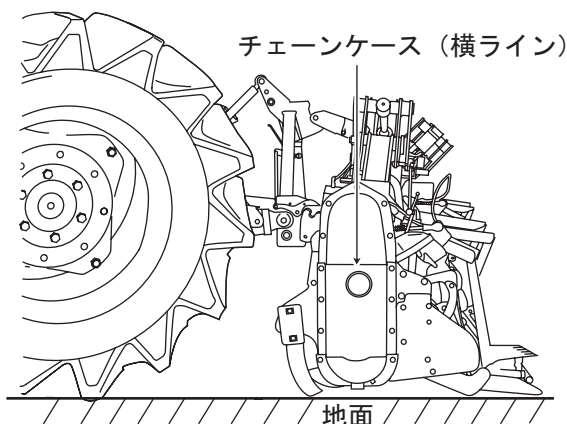
- ・ 石の多いほ場では、ややゆるく張ってください。





6.1.3 前後角度調整

作業姿勢のとき、作業機のチェーンケース（横ライン）と地面が平行になるように、トップリンクの長さを調整します。



注 記

- ・ 極端な前傾・後傾は、作業機の振動や異音発生の原因になります。また、作業性能も損なうおそれがあります。
- ・ トップリンクが作業中にゆるむことがないように必ずロックしてください。

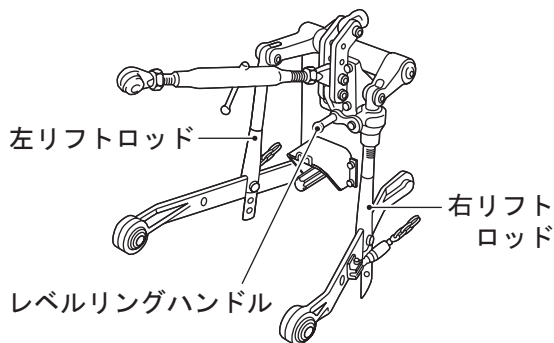
6.1.4 水平調整

◆自動水平装置付トラクタ

作業機の左右が、トラクタに対して水平になるように調整します。トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

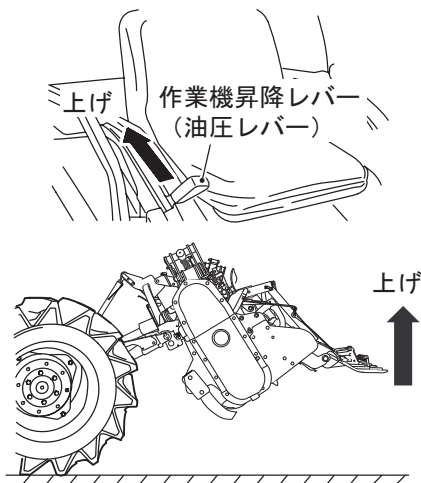
◆自動水平装置のないトラクタ

トラクタのレベリングハンドルを回して、右リフトロッドの長さを調整します。



6.1.5 「最上げ」位置の調節

PTO を回転させながら、ゆっくり作業機を上げ、振動や異音の出ない位置で油圧レバーを止め、「上げ規制ストッパー」で固定します。「5.2.3 持ち上げ時の注意」（21 ページ）を参照してください。



7 作業前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず作業前の始業点検をしてください。

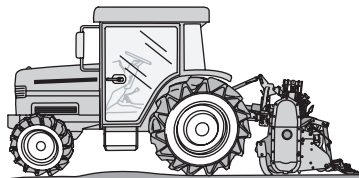
警告

- 点検は、交通の邪魔にならない安全なところで、機械が倒れたり動いたりしない、平らな固い場所で行ってください。
- 点検・整備・調整をするときは、必ずエンジンを停止してください。
- トラクタの取扱説明書「作業前の点検」をよく読んでください。
- 各部のゆるんだボルト・ナット等は、増締めをしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、機械の損傷につながります。

◆機械まわり

- (1) ミッションケースオイル量、オイルもれ点検
- (2) 各部の損傷、ボルト、ナットのゆるみ点検
- (3) ジョイントへのグリース点検
- (4) グリースニップルへのグリース点検
- (5) 代かき爪等消耗部品の点検
- (6) 配線の点検
- (7) ピン止め輪(E形止め輪)・Rピン、割ピンの点検



8 移動・ほ場への出入りと作業

8.1 移動・ほ場への出入りと作業に関する注意

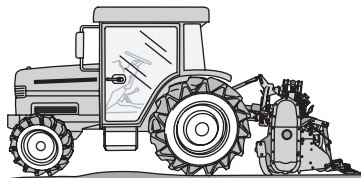
⚠ 警告

- 急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしないでください。
- 運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばないでください。
- 子供には十分注意し、作業機やトラクタへは近づけないでください。
- 作業機は絶対に、素手で触れたり、足でけらないでください。
- トラクタに作業機が付いていると後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人や物に注意して走行してください。
- あぜ越や段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めのある物を選んでください。
- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。トラクタメーカー純正のバランスウェイトを付けてください。
- 作業機は、上側に折りたたみますので、重心が移動します。傾斜地での急旋回は、トラクタが転倒するおそれがあります。トラクタの速度を低速にして大きく旋回してください。
- ほ場への出入りは、必ずあぜと直角にしてください。
- 両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意してください。軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機やトラクタの損傷の原因になります。

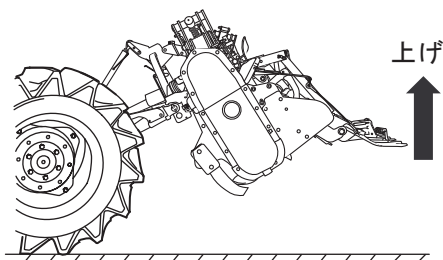
⚠ 注意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行しないでください。
【守らないと】道路運送車両法違反となるだけでなく、事故を引き起こす原因になります。
- 使用中異常が発生したらすぐにエンジンを止め、点検をしてください。
【そのまま使用すると】他の部分へ損傷がひろがるおそれがあります。



8.2 移動のしかた

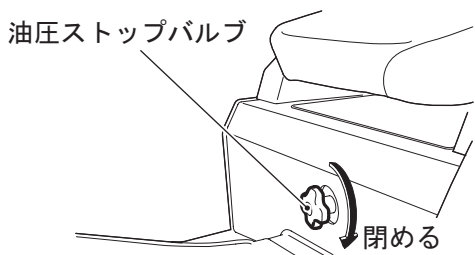
- 1** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）で作業機を最上げにします。
「5.2.3 持ち上げ時の注意」（21 ページ）を参照してください。



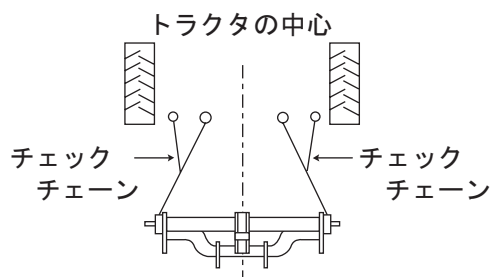
- 2** 油圧ストップバルブを完全に閉めます。

注 記

- 作業機が下がるのを防ぎます。

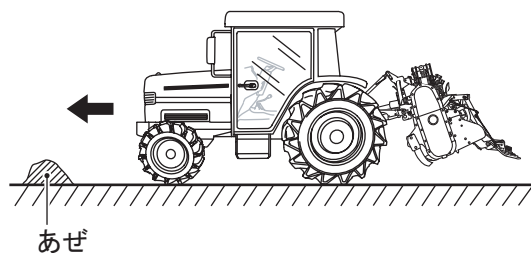


- 3** 作業機が左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めます。



8.3 ほ場への出入り

- 1** ほ場への出入りはあぜと直角に、ゆっくり前進で行います。



注 記

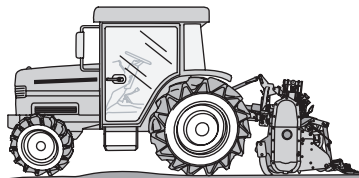
- 急な上り坂の場合には、後進でほ場に入り、前進でほ場から出ます。

- 2** 作業機の地上高が不足する場合は、トップリンクを縮め、地上高を確保してください。作業を行うときは、調整をやり直してください。

8.4 リモコンの配線のしかた

警告

- 配線は取扱説明書をよく読み、順序をまちがえないでください。
- バッテリーにコードを取付けるときは、火気を近づけないでください。
- 配線は、燃料タンクや配管、および動く部分を避け、ハーネス等が擦れてショートが起こらないところを通して配線し、結束バンドで固定してください。
- 12V バッテリー専用です。トラクタの取扱説明書で確認してください。
- コネクターは確実に接続してください。
【守らないと】ショートして、コードや操作ボックスが焼け、ヤケドや火災の原因になります。
- 作業機の配線作業は、平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
【守らないと】ケーブルやコネクターが破損したり、作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故につながります。



⚠ 注意

- 作業後、移動時は、必ず操作ボックスの電源(入/切)スイッチを「切」にしてください
- 長時間使用しない時は、バッテリーケーブルの赤い線、黒い線の白いコネクタをはずしてください。

【守らないと】バッテリーあがりや、誤操作でケガや機械の損傷につながります。

注 記

- 操作ボックス・リレーボックス・コネクタ等の電気部品は水に濡らさないでください。

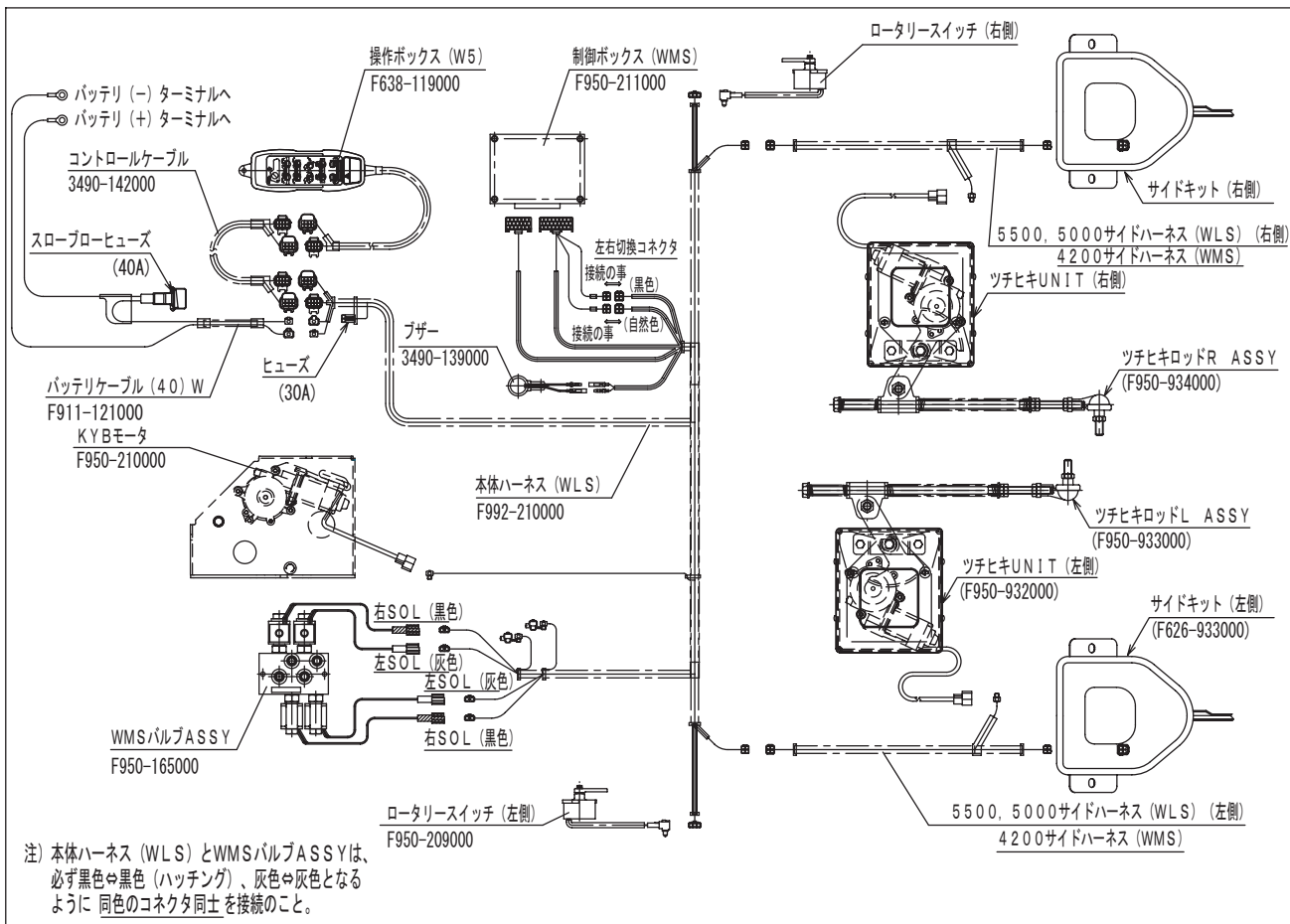
8.4.1 電源取出しのしかた (バッテリー直結)

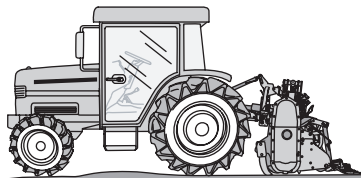
⚠ 注意

- 電源は必ず同封の専用バッテリーケーブルでバッテリーから直接取るようにしてください。アクセサリ電源や専用バッテリーケーブル以外を使用すると、トラクタのヒューズが切れたり、作業機が誤動作する原因になります。

- バッテリーケーブルは、付属の 40A 対応のケーブルを必ず使用し、バッテリーに直接取付けてください。

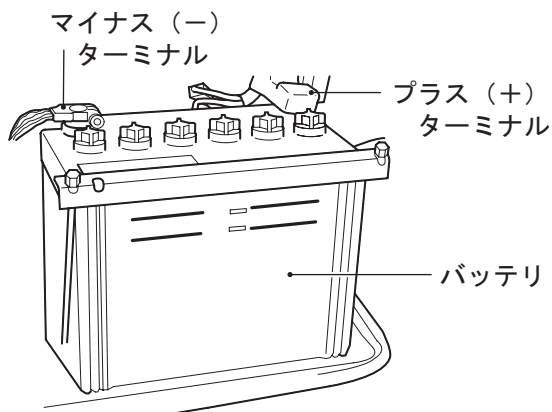
【守らないと】ヒューズが切れたり、誤動作の原因になります。





◆バッテリーへの取付け

- 1 配線をするときは、ショートを防ぐためバッテリーのマイナス(-)ターミナルを外します。



- 2 プラス (+) ターミナルを外します。

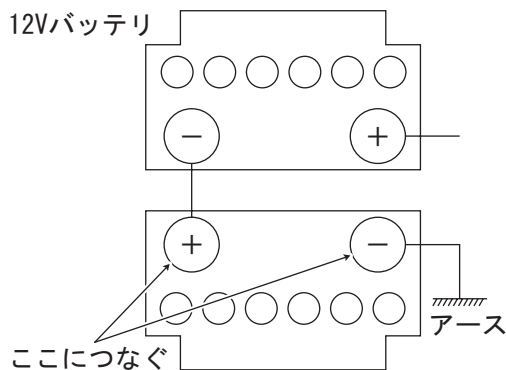
- 3 プラス側コード (40A ヒューズがある方) を、バッテリーのプラス (+) ターミナルへ取付けてバッテリーの (+) に取付け、ボルト、ナットを確実に締め付けます。

- 4 マイナス側コードを、バッテリーのマイナス (-) ターミナルへ取付けてバッテリーの (-) に取付け、ボルト、ナットを確実に締め付けます。

注 記

- ・ コードの取付けは確実に行ってください。
- ・ 作動不良の多くは、ターミナル接続の不良に原因があります。
- ・ バッテリーケーブルが短い場合は、電源ケーブルを使用して、全体に余裕をもった配線をしてください。
- ・ 電源コードを他の作業機 (MP、FT 等) に使う場合は、変換ハーネス (部品番号 R060 151000) を使用してください。

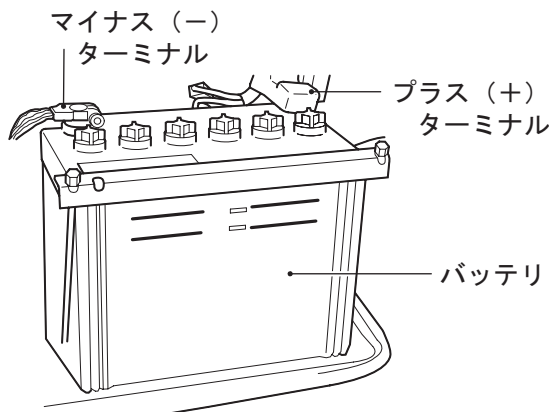
- ・ 24V (12V×2 個) バッテリーの場合は、下図の位置につないでください。



- 5 コードが邪魔にならないようにボンネットの中を通します。

◆バッテリーからの取外し

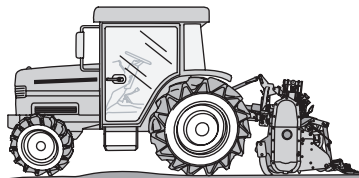
- 1 配線を取外すときは、ショートを防ぐためバッテリーのマイナス (-) ターミナルを外し、マイナス側コードを取外します。



- 2 プラス (+) ターミナルを外します。

- 3 プラス側コード (40A ヒューズがある方) を取外し、プラス (+) ターミナルをバッテリーの (+) に取付け、ボルト、ナットを確実に締め付けます。

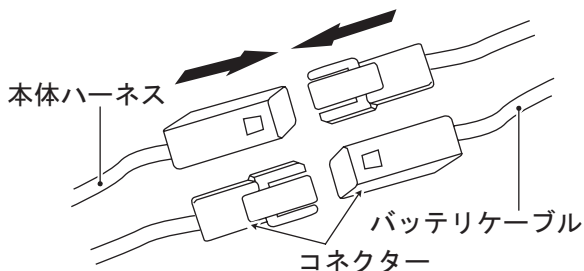
- 4 マイナス (-) 側コードを取外し、マイナス (-) ターミナルをバッテリーの (-) に取付け、ボルト、ナットを確実に締め付けます。



8.4.2 バッテリーケーブルと本体ハーネスのつなぎ方

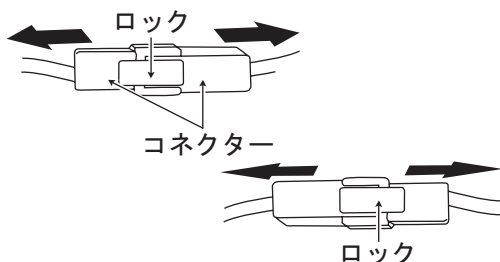
◆つなぎ方

- 1 本体ハーネスから出ているコードのコンネクターとバッテリーケーブルのコンネクターを持って接続します。



◆外し方

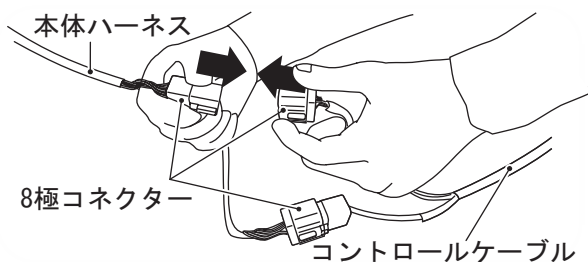
- 1 ロックを押えながら、コンネクターを持って引き抜きます。



8.4.3 操作ボックスと作業機のつなぎ方

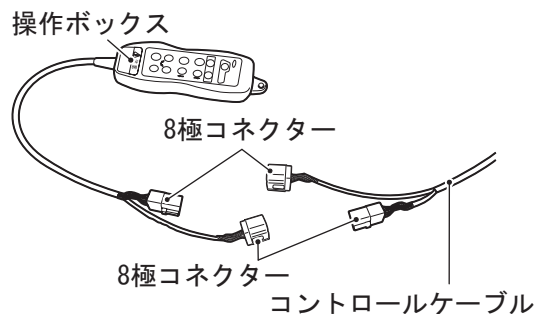
◆つなぎ方

- 1 作業機から出ている本体ハーネスの8極コンネクターとコントロールケーブルの8極コンネクターを持って接続します。



2

操作ボックスの8極コンネクターとコントロールケーブルの8極コンネクターを持って接続します。

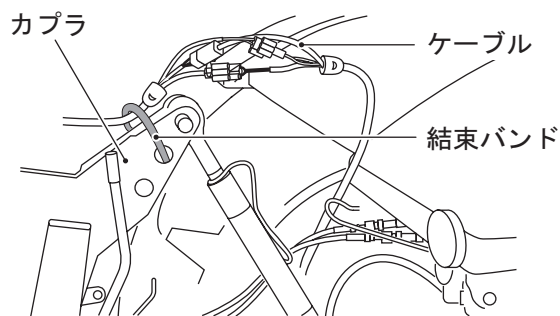


3

作業機を上下し、ケーブルが引っ張られたり、たるみ過ぎないように調節します。調節後、結束バンドをカプラの空いた穴(トップリングピン用)に通して固定します。

注意

- ・ コントロールケーブルや、電源ケーブルを運転席に引込む場合、キャビンのリヤウインドにはさみ込むことは、絶対にしないでください。必ず専用の引込み口を通してください。ケーブルがつぶれて、作動不良や、故障の原因になります。



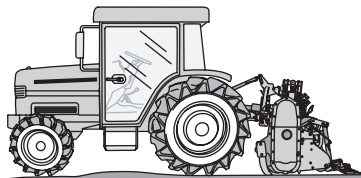
◆外し方

注意

- ・ コネクターを外すときは、ケーブルおよびハーネスを持って引き抜かないでください。断線の原因になります。

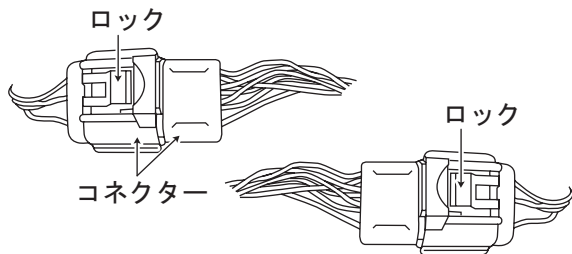
1

取付けた結束バンドを外します。



2

ロックを押えながら、コネクターを持って引き抜きます。



注 記

- ・ コネクターは、オス・メスを組合わせてください。(詳しくは、次節「8.5 コネクターの取扱い」を参照してください。)

8.5 コネクターの取扱い

注意

- ・ コネクターを外したら、必ずオス・メスを組み合わせて端子(ピン)の保護をしてください。(ただし、電源ケーブル、バッテリーケーブルは除きます。)
- ・ 各コネクターは、端子(ピン)の変形やホコリ・水分による損傷を防ぐため、取扱いには十分に注意してください。(着脱はていねいに行ってください。)

機械の破損をまねくおそれがあります。

8.6 リモコンの操作

- サイドレーキの開閉・土引き操作は電気を利用しています。この操作を行うリモコンを標準装備しています。
- WLS シリーズは、DC12V 電源が必要です。
- サイドレーキの開閉と土引き↔作業の切換えは電動です。作業時は必ずスイッチボックスの電源を入れてください。

警告

- 配線は取扱説明書をよく読み、順序をまちがえないでください。

【守らないと】ショートして、コードや操作ボックスが焼け、ヤケドや火災の原因になります。

警告

- バッテリーにコードを取付けるときは、火気を近づけないでください。
- 配線は、燃料タンクや配管、および動く部分を避け、ハーネス等が擦れてショートが起こらないところを通して配線し、結束バンドで固定してください。
- 12V バッテリー専用です。トラクタの取扱説明書で確認してください。
- コネクターは確実に接続してください。
- トラクタから作業機を外す時は、必ず作業機本体のコントロールボックスから出ている2極、8極のコネクターを外してください。

【守らないと】ショートして、コードや操作ボックスが焼け、ヤケドや火災の原因になります。

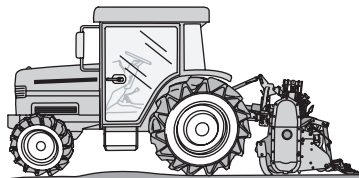
- 作業機の開閉操作は、平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

【守らないと】作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故につながります。

注意

- スイッチボックスの電源が入っているときは、エンジンをかけたり止めたりしないでください。
- コネクターを外すときは、ケーブルおよびハーネスを持って引き抜かないでください。断線の原因となります。
- 作業後、移動時は、必ず操作ボックスの電源(入/切)スイッチを「切」にしてください。
- 長時間使用しない時は、バッテリーケーブルの赤い線、黒い線の白いコネクターをはずしてください。
- 操作ボックスは水ぬれ厳禁です。必ずキャビン内もしくは、屋内に保管してください。
- リモコンを操作するときは、周りに人がいないか確認してください。
- 走行変速は「中立」にし、必ず駐車ブレーキをかけてください

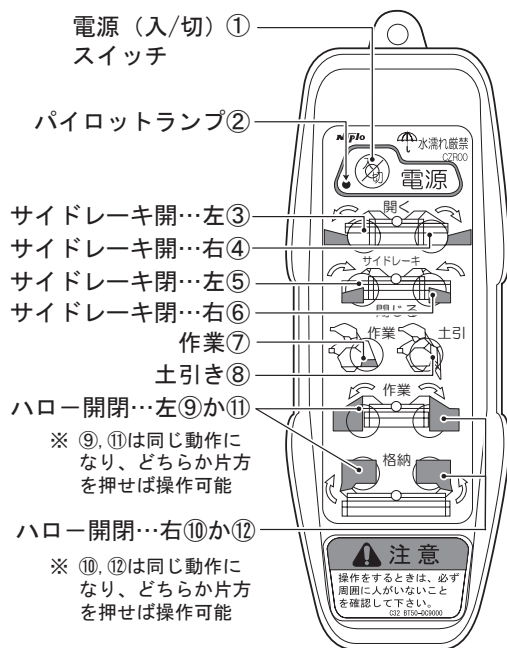
【守らないと】ケガや機械の損傷につながります。



注 記

- ・ バッテリーの電圧が低い時(約 10V 以下)、スイッチボックスの電源が入らなくなっています。また、電圧が下がると、自動的に電源が切れます。
- ・ コネクターを外した時は、オス・メスを組合わせて、端子(ピン)の変形やホコリ・水分による損傷を防いでください(8 極コネクターのみ)
- ・ 作業・格納ボタンは押している間だけ動きます。フックが掛かったことを確認するまで押してください。
- ・ サイドレーキ・作業・土引きのボタンは 1 回押すだけで指を離しても動きます。

◆操作ボックスの各部の名称



◆スイッチで操作できること

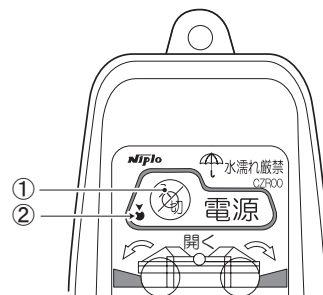
- ・ 電源の入/切
- ・ サイドレーキの開閉
- ・ ハローの片側開閉
(34 ページ「8.9 ウィングハローの開閉」を参照してください。)
- ・ レーキ姿勢の切換え
(土引き ↔ 作業)

8.7 電源入/切操作

作業機を操作する場合は、必ず操作ボックスの電源を入れてください。

1

電源 (入/切) スイッチ①を 1 秒以上押します。「ピー」とアラーム音がして、パイロットランプ②が点灯し、電源が入り、作業準備状態となります。



2

電源の「切」は、電源 (入/切) スイッチ①を 1 秒以上押します。「ピー」とアラーム音がして、パイロットランプ②が消え、電源が切れます。

注 記

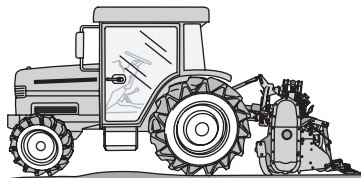
- ・ 電源切り忘れ防止のため、オートパワーオフ機構が装備されています。スイッチ等を 8 時間以上押さない状態が続くと自動的に電源が切れます。
- ・ パイロットランプ②が点灯しないとき
a) コネクターの接続を確認してください。
b) ヒューズの点検をしてください。
バッテリーケーブル (+) 側の 40A
- ・ 作業が終わったら、必ず電源 (入/切) スイッチ①を「切」にしてください。

8.8 外部油圧取出口と油圧ホースの接続

警告

油圧ホースの接続をするときは、平らで固い場所を選び、トラクタのエンジンを止め、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。

【守らないと】作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故につながります。



⚠ 注意

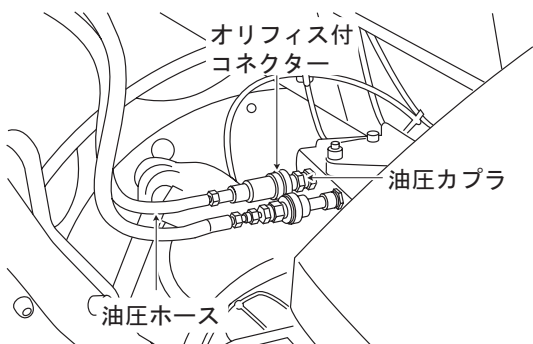
油圧ホースを接続するときは、接続部に顔を近づけないでください。

【守らないと】作動油が噴き出し、目や口に入り、人体に悪影響をおよぼす可能性があります。

注 記

- ・ 油圧カプラはトラクタの型式ごとで異なります。作業機には標準装備していませんので、お買い求めの販売店、農協で別途お買い求めください。

◆油圧ホースと油圧カプラとの接続



- 同梱のオリフィス付コネクタに、油圧カプラ、油圧ホースをそれぞれ接続します。油圧ホースとオリフィス付コネクタ間は、シールテープ等は一切不要です。
- 油圧カプラとオリフィス付コネクタ間は、ねじサイズ、シール方法等が様々です。油圧カプラに合わせた、変換コネクタ、シールテープが必要です。

注 記

- ・ オリフィス付コネクタは必ず使用してください。使用しないと作業機本体が破損する場合があります。
- ・ 油圧カプラ接続時にゴミ等が入り、コネクタフィルタにつまると、油圧シリンダの動作が異常を起こします。ゴミづまりが無いことを確認してください。

◆トラクタとの接続

作業機本体から出ている2本のホースをそれぞれ、油圧カプラを介して、トラクタ側取出口へ接続します。シリンダ伸側のホース(結束バンドの付いた方)を、トラクタの逆止弁付ポート側に接続してください。ポート区別不明な場合は、トラクタ外部油圧レバーを操作しやすいように接続してください。

注 記

- ・ 油圧ホースの先端に取付けた油圧カプラの接続部をきれいにふき、ゴミが入らないようにしてください。作動不良の原因になります。
- ・ 油圧の作動油は、きれいなものを規定量使用してください。汚れているとバルブがつまる原因になります。

◆トラクタとの取外し

- 油圧ホースをトラクタから取外すときは、必ず油圧ホースの圧力を抜いてから行います。圧力を抜くには、トラクタのエンジンを止め、外部油圧コントロールレバーを上下または左右に3～4回動かして、圧力を抜きます。

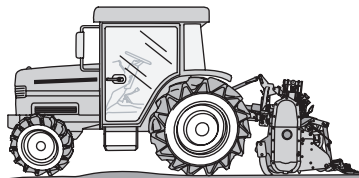
注 記

- ・ トラクタメーカーにより多少異なる場合があります。
- (b) 油圧カプラの取外し方は、トラクタメーカーにより異なります。トラクタ取扱説明書を参照ください。

8.9 ウィングハローの開閉

⚠ 警告

- ウィングハローを開閉する際は、周囲に人がいないことを十分に確認してください。
【守らないと】重大な事故につながります。
- ウィングハローの開閉操作は平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢でおこなってください。
【守らないと】作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故につながります。



注 記

- ・ 開閉する際に、トラクタのリヤウィンド等に当たり破損につながります。ウィングハローを下げて開閉してください。
- ・ サイドレーキが閉じていることを確認してください。開いたままでの開閉は、サイドレーキの破損につながります。
- ・ 開閉途中でコントロールレバーを「中立」にし、停止しないでください。油圧シリンダのバランスがくずれ、思わぬ動きになります。中間停止はしないでください。
- ・ トラクタのPTOは必ず停止して行ってください。故障の原因になります。
- ・ ウィングハローの開閉は、機体を地表面及び水面より50~100mm持ち上げて、開閉操作を行ってください。
- ・ 操作ボックスの電源が入っていることを必ず確認してください。
- ・ 片側開閉はスイッチを押している間のみ機能します。

8.9.1 閉じる場合

トラクタ外部油圧コントロールレバーを操作します。左右のロックが外れ、アラーム音が鳴りながらウィングハローが閉じはじめます。

コントロールレバーをそのまま操作しつづけると、所定の位置まで閉じて、アラーム音が止まります。これで「閉じ」動作は終了します。

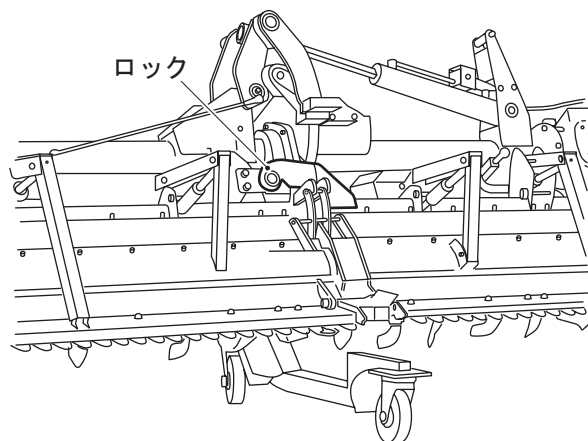
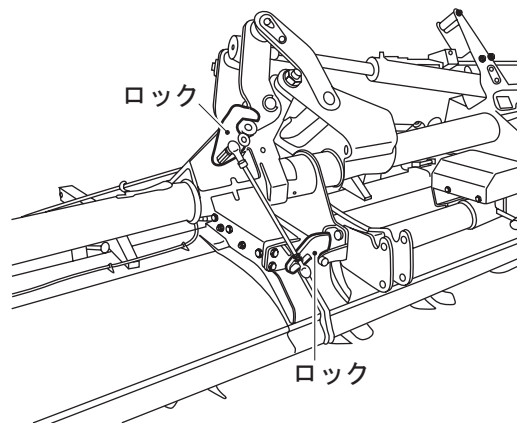


8.9.2 開く場合

閉じる場合と逆にトラクタ外部油圧コントロールレバーを操作すると、アラーム音が鳴りながらウィングハローが開き始めます。

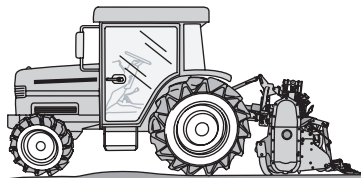


開ききると、左右（前後）のロックがかかりアラーム音が止まります。ロックが確実にかかっているか確認してください。



注 記

- ・ ゴミや異物のかみ込み等で、均平板およびレーキのかん合部（はめあい部）が不完全である場合、ロックがかからない場合があります。原因を取除いて、やりなおしてください。
- ・ センター代かき部で作業をした場合、左右の動力伝達部（クラッチ部）、均平板およびレーキのかん合部（はめあい部）へ泥等の付着が発生しますので、ウィングハローを開く際は、異物を必ず除去してください。ロックがかからない場合や左右の代かき部が持ち上がったままになり、レーキ等が水平にならず、仕上がりが悪くなります。
- ・ 油圧シリンダのエア抜きは、特に必要ありません。油圧シリンダの交換等をしたときだけ、油圧シリンダを数回リリース状態（音）まで伸縮させてください。



8.9.3 片側開閉の場合

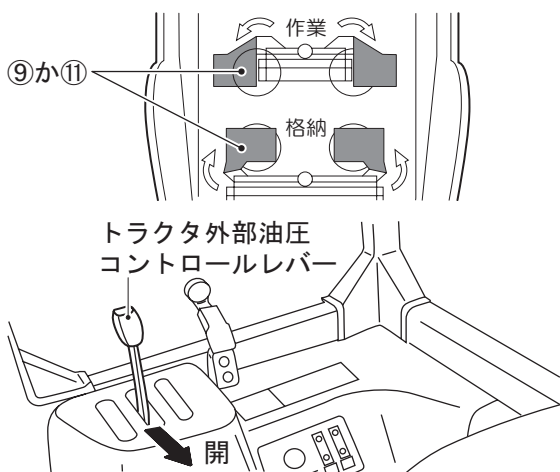
片側開閉を行うときは、開閉動作が完了後、トラクタ外部油圧コントロールレバーを戻してからスイッチから手を放してください。

◆左を開く場合

1 「ハロー開閉…左」⑨か⑪を押し、トラクタ外部油圧コントロールレバーを操作します。

注 記

- ・ ⑨, ⑪は同じ動作になり、どちらか片方を押せば操作可能です。
- ・ 操作中は、スイッチを押しつづけてください。

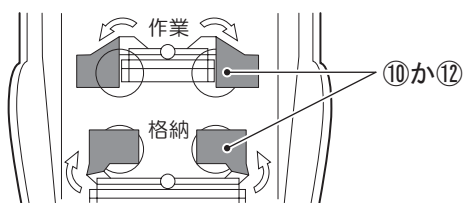


2 アラーム音が鳴りながら格納ロックが外れ、開く動作に入ります。

3 開ききると作業ロックがかかります。確実にロックされたか確認してください。

◆右を開く場合

右を開く場合は、「ハロー開閉…右」⑩か⑫を押し、左を開く場合と同様の操作をします。

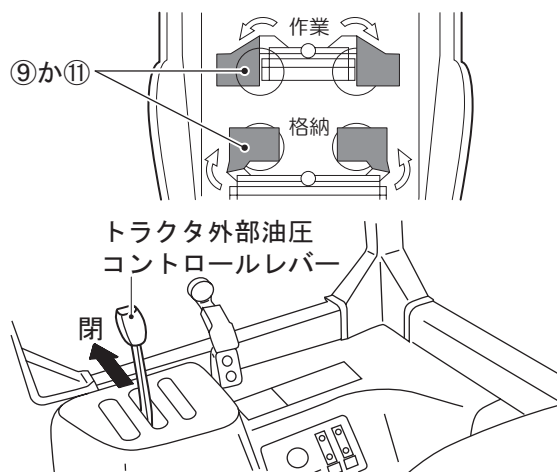


◆左を閉じる場合

1 「ハロー開閉…左」⑨か⑪を押し、トラクタ外部油圧コントロールレバーを操作します。

注 記

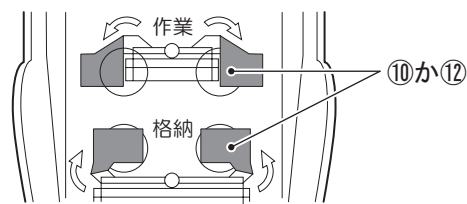
- ・ ⑨, ⑪は同じ動作になり、どちらか片方を押せば操作可能です。
- ・ 操作中は、スイッチを押しつづけてください。

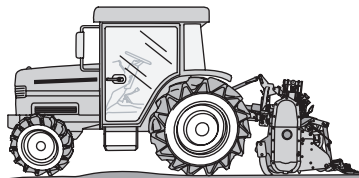


2 アラーム音が鳴りながら作業ロックが外れ、閉じる動作に入ります。

◆右を閉じる場合

右を閉じる場合は、「ハロー開閉…右」⑩か⑫を押し、左を閉じる場合と同様の操作をします。



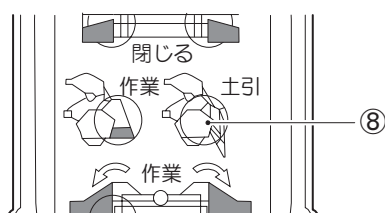


8.10 土引き・代かきの切替

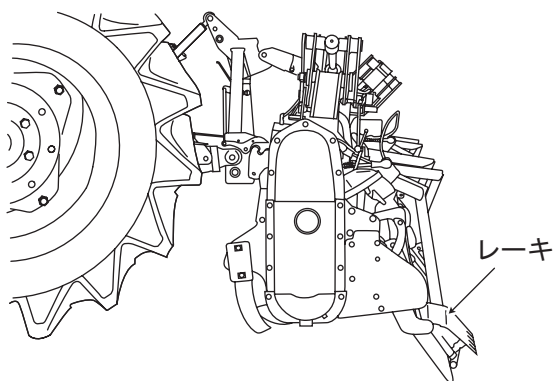
ウイングハローが開ききっているか確認してください。電源の入っていることを確認してください。

8.10.1 土引きをする場合

- 1 「土引き」⑧を押すと、アラーム音が鳴りながら、マスト部と土引きユニット（左右）で土引きカムが回転しロックされます。



レーキは斜め下に下がった状態になります。

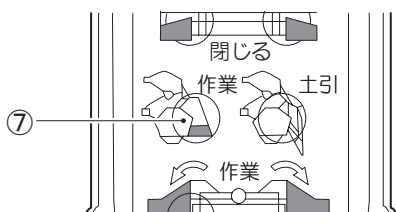


注 記

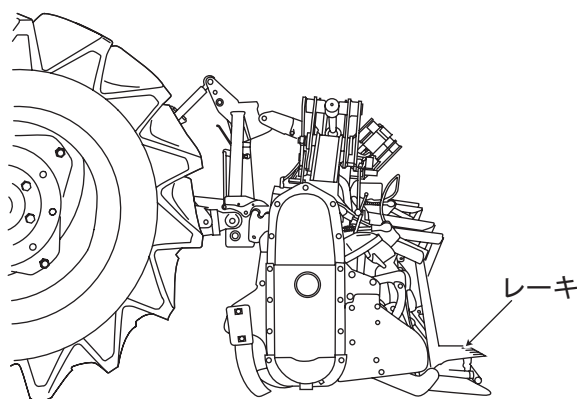
- ・ 土引き作業は前進で行ってください。バックでの土押しはしないでください。

8.10.2 土引きを解除する場合

- 1 「作業」⑦を押すとアラーム音が鳴りながらマスト部と土引きユニット（左右）で土引きカムが回転し、ロックが解除されます。



レーキは土引き状態のままになっています。トラクタの油圧によりウイングハローをゆっくり下げて土面に付けるか、再び代かき作業を行うことで自動的にレーキが作業姿勢にもどります。



注 記

- ・ 土引きカムがロックされない場合は、土引き作業を絶対にしないでください。レーキにゴミ等の異物がかみ込んだりして土引き姿勢にならない場合がありますので、必ず原因を除去してください。

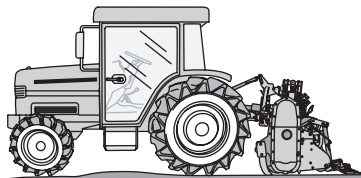
8.11 サイドレーキの開閉

電源が入っていることを確認してください。また、ウイングハローが「開ききって」いることを確認してください。

注意

- ・ 閉じきっていない状態（ブザーのアラーム音がなっている状態）でサイドレーキの開閉操作はしないでください。閉じきっていない状態でもサイドキットは作動します。

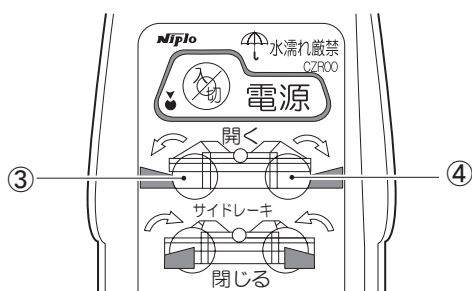
閉じ動作の途中でサイドレーキの開閉を行うと、サイドキットが破損、または作業機を損傷する可能性があります。（格納状態のみサイドキットは作動しません。）



8.11.1 サイドレーキを開く場合

1 「サイドレーキ開…左」③を押すと、アラーム音が鳴りサイドレーキ左が作動し、開きます。

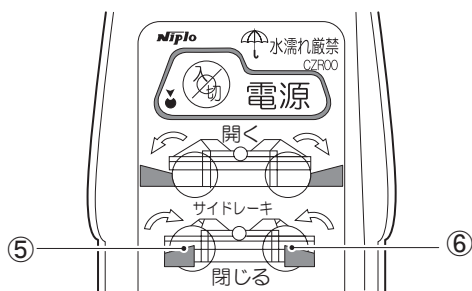
2 「サイドレーキ開…右」④を押すと、アラーム音が鳴りサイドレーキ右が作動し、開きます。



8.11.2 サイドレーキを閉じる場合

1 「サイドレーキ閉…左」⑤を押すと、アラーム音が鳴りサイドレーキ左が作動し、閉じます。

2 「サイドレーキ閉…右」⑥を押すと、アラーム音が鳴りサイドレーキ右が作動し、閉じます。



注 記

- ・ サイドレーキを左右同時に操作すると、左側が動いてから、右側が動くことがあります。異常ではありません。
- ・ サイドキットに直接圧力水をかけないでください。
- ・ サイドレーキを開いた状態で、ウイングハローの開閉はしないでください。故障の原因になります。
- ・ サイドレーキを開いた状態でウイングハローを閉じる操作をすると、サイドレーキ保護回路により、電源が入っているときのみサイドレーキは閉じます。

8.12 作業のしかた

警告

- 作業中は、トラクタと作業機のまわりに人を近づけないでください。
【守らないと】事故を引き起こす原因になります。
- 回転部分に草やワラが巻き付いたときは、PTO回転を止め、必ずエンジンを停止させ、巻き付きを外してください。
- 傾斜地での急旋回は転倒のおそれがあります。トラクタの速度を落とし、大きく回ってください。
- 作業機の調整をする場合は、必ずエンジンを止めてから行ってください。
- 作業機を使用しないときは、電源ケーブルを抜いてください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故、機械の故障をまねくおそれがあります。

注意

- 作業中や作業後は、草やゴミを路上に落とさないでください。
【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こす原因になります。

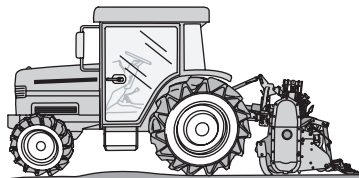
8.12.1 ほ場の高低を修正

ほ場の高い所の土を引いて、平らにならす土引き作業は、代かき作業の前に行います。

1 作業の前に、ほ場の高低をよく確認します。

2 土引き状態にロックします。

3 PTO回転を切り、代かき軸を回転させずに土引きをします。PTOを回転させながら土引きをすると少なく引けます。



4 ウィングハローを下げ過ぎると、大量の土が引け穴になります。レーキの下がり量と土引き量を見ながら少しずつ行ってください。

注 記

- ・ 耕うんされていない所の土引きや、バックによる土押しは絶対にしないでください。

5 土引き作業が終わり、代かき作業をするときは土引き装置のロックを外し、解除してください。

8.12.2 外周代かき作業(1回目)

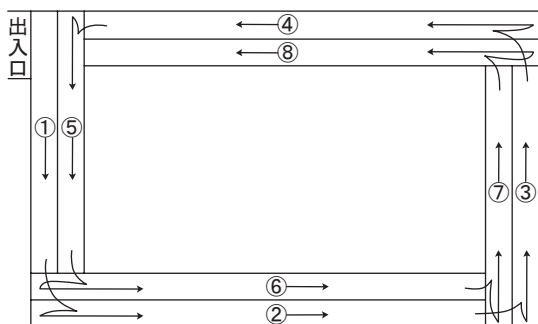
1 サイドレーキを閉じます。

2 右側をあぜ際にして、右リフトロッドを少し伸ばして作業を行います。

注 記

- ・ ウィングハローのあぜ際を下げて作業を行うと、高くなっているあぜ際の土を中に入れることができます。

3 代かき深さを少し深くして①から④の順に作業を行います。



4 ウィングハローを水平に戻し、⑤から⑧の順に作業を行います。

8.12.3 中央部代かき作業

代かき作業は、土の移動を最小限にするため、急旋回をさけ、1行程おきに行います。



1 ウィングハローは水平のまま、⑨から作業を続けます。

2 ⑩～⑬は大きく旋回するため、1行程分を残しながら往復で作業を進めます。

3 ⑭～⑱の残っている所を1行程ずつ往復で作業を進めます。

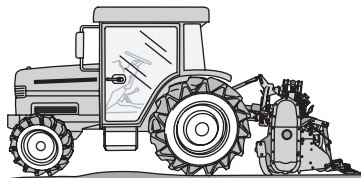
注 記

- ・ ここまでは、雑物を深く埋め込むため、水持ちをよくするために、代かき深さを少し深くして作業を行います。

8.12.4 田植方向の直角に作業(2回目)

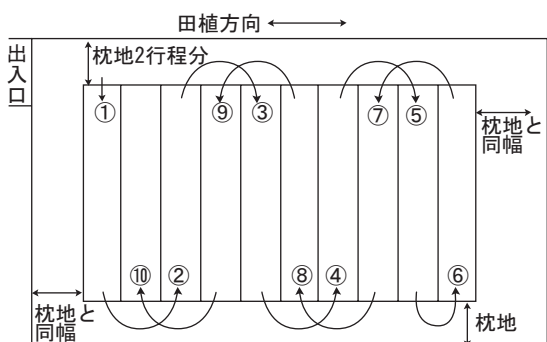
1 サイドレーキを左右とも開きます。代かき深さを、トラクタのタイヤ跡が消える程度に出来るだけ浅くして作業を行います。

2 旋回用の枕地を2行程分取ります。両側にも同じ幅を残し①から作業を始めます。



3 ②から⑤は大きく旋回するため1行程分を残しながら作業を進めます。

4 ⑥から⑩の残っている所を1行程ずつ往復で作業を進めます。



8.12.5 外周の仕上げ

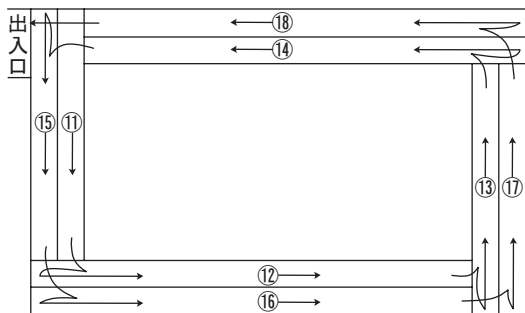
1 代かき深さを、トラクタのタイヤ跡が消える程度に出来るだけ浅くして作業を行います。

2 ⑪から⑭の順に、きれいに仕上げます。

3 右側のサイドレーキを閉じて、⑮から⑰の順に、右側をあぜ際にして、右リフトロッドを少し伸ばして作業を行います。

注 記

- ・ ウィングハローのあぜ際を下げて作業を行うと、用水、排水の水の走りを良くすることになります。



8.13 作業のポイント

より良い代かきをするには、作業機の取扱いの他に次のことに気を付けてください。

- 耕うん作業は一定の深さ(12~15cm)で平らに、残耕のないように耕うんしてください。
- 水量が少ない場合
土の抵抗が大きく、代かきしにくくなります。
水量が多い場合
水で土が移動し均平が悪くなり、肥料の移動も大きくなります。
- ワラや雑草の多いほ場では、やや水を少なくし、浮き上がるのを防ぎます。

注 記

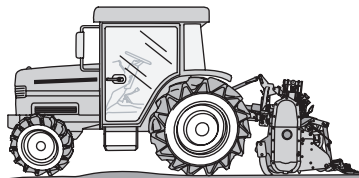
- ・ 水面に土塊が30~50%程度出るくらいに湛水します。湛水してから代かきを開始するまでに1~2日おくと容易に碎土され作業が効率よく行えます。
- d) 水もちの良い水田では、代かきをしすぎると土がつまり酸素が欠乏し根腐れを起こしますので、少ない作業回数で仕上げます。水もちの悪い水田では水もちを良くするため、碎土を十分して仕上げます。
- e) 代かき後は、湛水状態で田植時までおきます。落水すると田面が硬直して田植不能や、除草剤が効かなくなります。

注 記

- ・ 代かき後の1日の減水深は20~30mmが最も収量が多く、50mmを超えると急激に減少と言われています。
- f) 水田の高い所の土を引いて、平らにならず土引き作業は、代かき作業の前に行います。

注 記

- ・ 基本的にはPTO回転を切り、代かき軸を回転させずに土引きします。
下げすぎると一辺に大量の土を引いてしまいますので、下がり量と土引き量を見ながら少しずつ行います。またPTOを回転させながら引くと少なくて引けます。



- g) 作業速度は1.5~3.0km/hが目安です。条件によっては5.0km/hも可能ですが、早すぎると碎土やワラや雑草の埋め込みが悪くなる場合があります。
- h) PTO回転数は約500~600回転が目安です。碎土が悪いときは、PTO変速2速でエンジン回転を2000回転で行うと碎土が良くなります。
- i) 代かきは土の移動を最小限にするため急旋回をさけ、1行程置きに作業するのが一般的です。

注 記

- ・ 一般的に荒代では水回りを良くするために、最初に外周を回ります。逆に植代では排水を良くするために最後に外周を回ります。
- ・ あげ際を回るときは、あげ際を低くして作業すると、高くなっているあげ際の土を中に入れることができます。

8.14 上手な作業のしかた

8.14.1 作業速度

トラクタの作業速度は1.5~3.0km/hが標準です。ほ場条件によっては5.0km/hの作業も可能ですが、トラクタの速度が速すぎると、碎土やワラ・雑草の埋め込みが悪くなる場合があります。

8.14.2 PTO 回転速度

PTO回転数は作業状態に合わせて調節してください。PTO変速1速のエンジン回転数定格が標準です。碎土の悪い時は、PTO変速のあるトラクタは2速を使い、エンジン回転は2000回転前後を使用してください。

8.14.3 逆転 PTO について

- (1) 基本的には、逆転PTOは使用しないでください。
 - ・ 代かき爪、浮力板の形状、取付方向が逆転には対応していません。
- (2) 水田の(代かき前の状態)四隅の土寄せ、土引き作業は、本作業機で行えます。土引き作業については、「8.10.1 土引きをする場合」(37ページ)、「8.10.2 土引きを解除する場合」(37ページ)を参照してください。

8.14.4 作業深さの調節

「オート装置」を付けていない場合は、トラクタのポジションコントロールを使います。

トラクタの取扱説明書の項を参照してください。(オート装置については、「13 用語と解説(57ページ)」を参照してください。)

8.14.5 レーキ可変機構

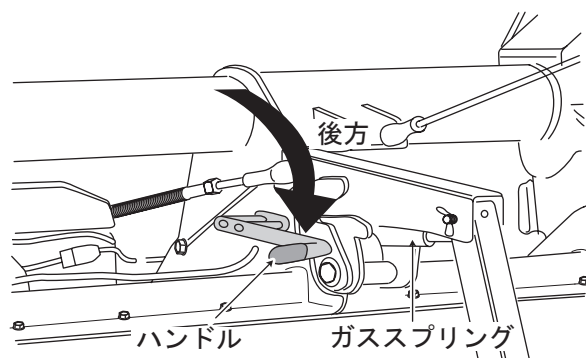
(ガススプリングの調整)

レーキアームのガススプリングでレーキの押さえを調整します。

◆標準位置(押さえ弱)の場合

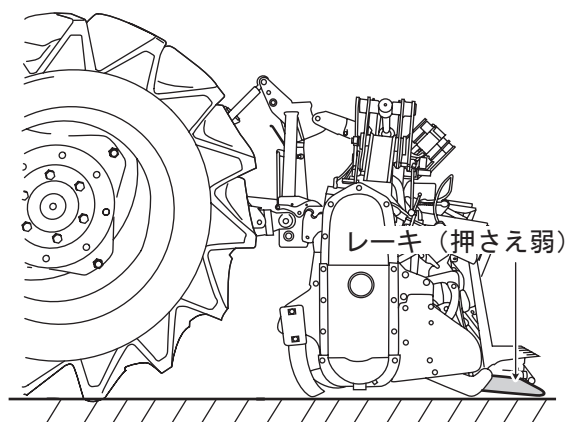
1

ハンドルを後方に倒し、ガススプリングの働きを強めます。(WLS5000の場合:4箇所)



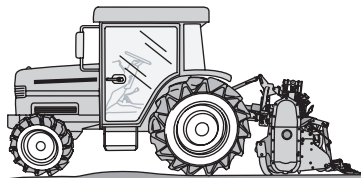
2

レーキの押さえが軽減し、レーキが常に水平になるように可変します。



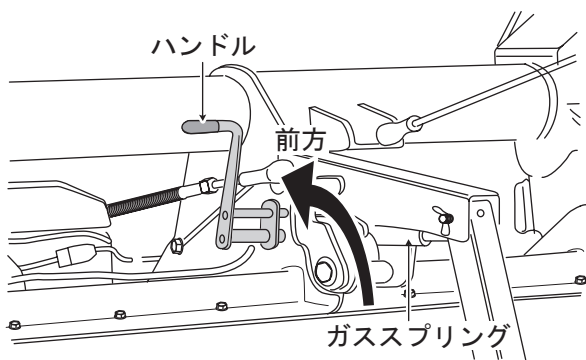
注 記

- ・ 標準位置(押さえ弱)の場合は、低速から高速作業まで適応できます。

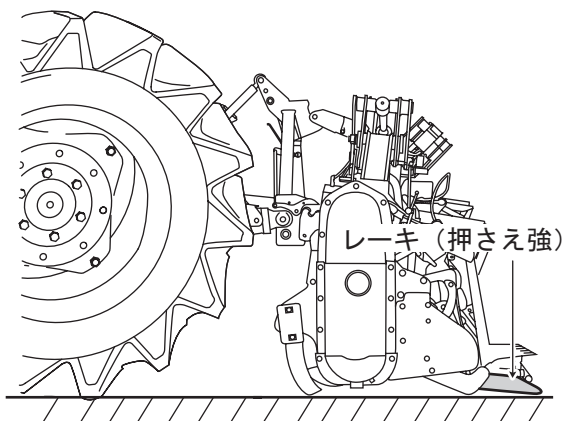


◆粗(荒)代位置(押さえ強)の場合

- 1** ハンドルを前方に倒し、ガスプリングの働きを弱めます。(WLS5000の場合: 4箇所)



- 2** レーキが浮き気味のときや、粗(荒)代で土塊が大きい場合にレーキの押さえを強くします。



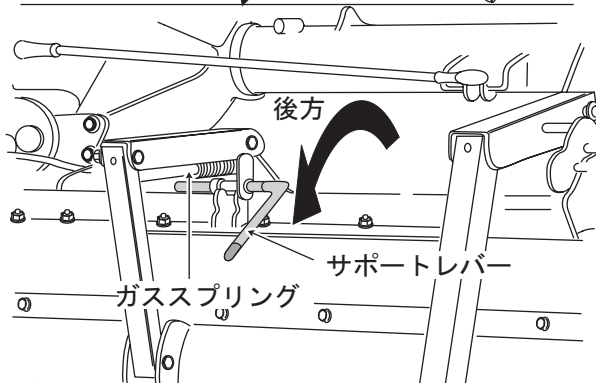
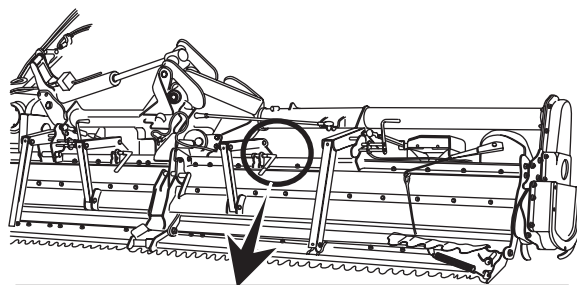
注 記

- 粗(荒)代位置(押さえ強)の場合、高速で作業をすると、作業機の両側に水や泥が出ます。

8.14.6 均平板可変機構 (サポートレバーの調整)

◆標準位置(押さえ弱)の場合

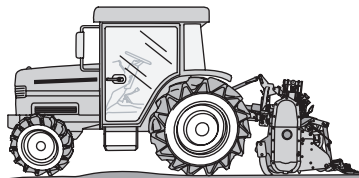
- 1** 前方にサポートレバーを倒します。(左右2箇所)



- 2** ガスプリングの押し上げる力が増え、均平板の押さえが軽減します。

注 記

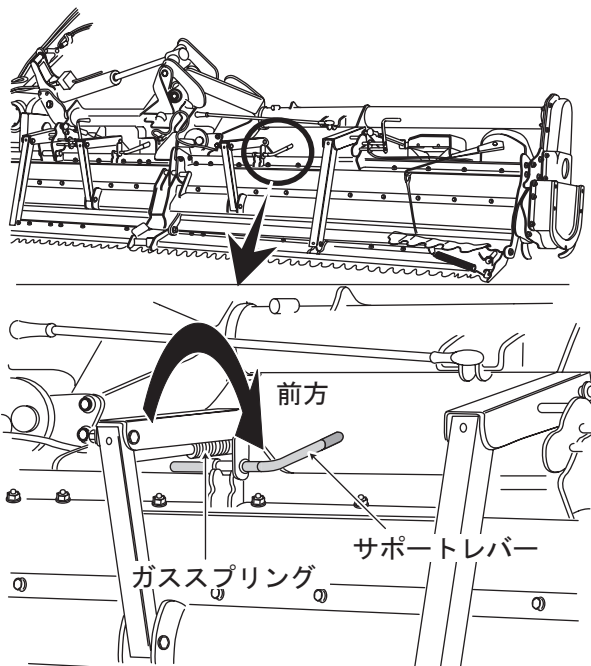
- 標準位置(押さえ弱)の場合は、作業機の両脇から出る水や泥を減らし、後ろへスムーズに流します。



◆粗(荒)代位置 (押さえ強) の場合

1

後方にサポートレバーを倒します。
(左右 2箇所)



2

ガススプリングの押し付ける力が増え、均平板の押さえが増加します。

注 記

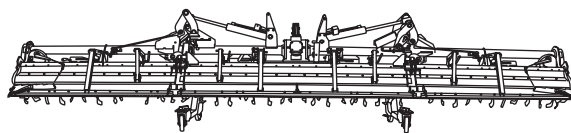
- ・ 作業速度を遅くして使用します。
- ・ 強粘土やプラウ・スキ・ディスク耕後で土塊が大きな場合に使用します。

8.15 左右・片側および中央代かき作業の場合

左・右片側および両側を折りたたんだ状態で、作業が行えます。

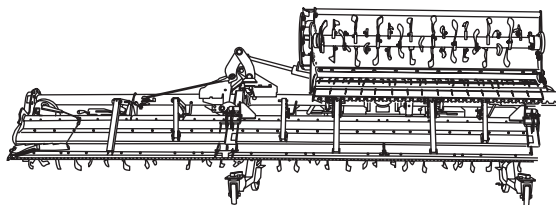
◆全面作業

広い水田、水田中央部の作業仕上り、作業効率が良く、標準的な使い方です。



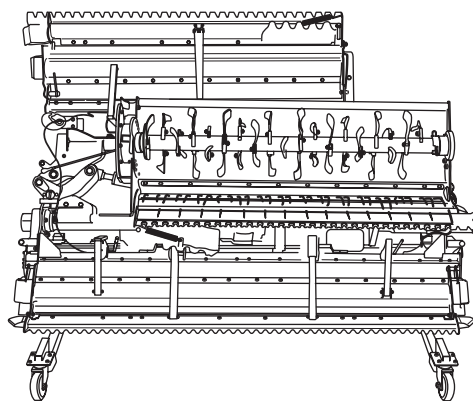
◆左・右どちらか折りたたんでの作業

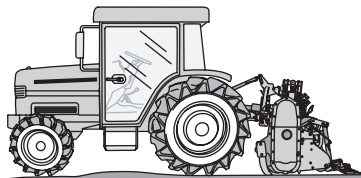
あぜ際の隣接作業があぜにウイングハローを合わせやすく便利です。



◆両側折りたたんでの作業

ほ場の狭い所、3角形のほ場、ほ場の出入口の仕上げ作業に便利です。





9 トラクタからの取外し

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下へもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 作業機の取外しは、平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故の原因になります。

- トラクタから作業機を取外すときは、各種のケーブルと作業機から出ているコードのコネクターを取外し、油圧ホースの圧力を抜いてから、取外します。

油圧ホースの圧力を抜くには、トラクタのエンジンを停止し、外部油圧レバーを上下または、左右に3~4回動かして圧力を抜きます。

【守らないと】コード等が切れるか作業機が転倒します。

⚠ 注意

- トラクタのPTO変速レバーを「中立」の位置にして、取外してください。

【守らないと】誤操作でPTO軸が回り、傷害事故につながります。

注 記

- ・ やむを得ず不整地や、傾斜地でトラクタから取外す場合は、必ずウイングハローを開いた状態で行ってください。

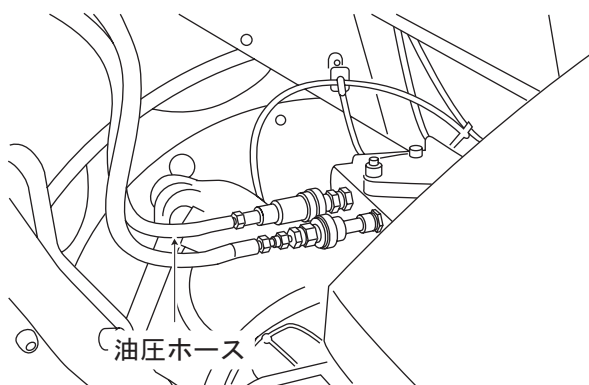
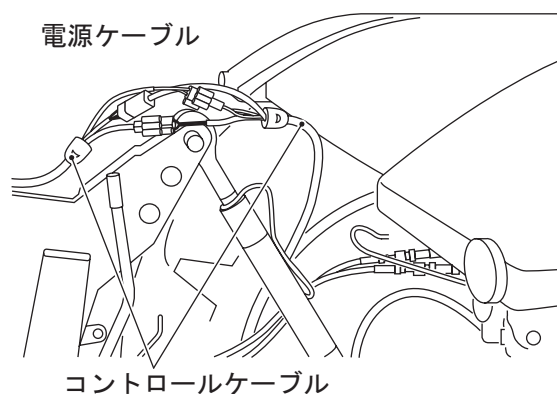
◆取外しの準備

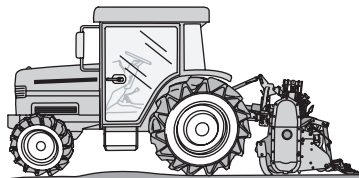
1

作業機本体の制御ボックスを接続している電源ケーブル、コントロールケーブルのコネクターと油圧ホースを外してください。外したコントロールケーブルのコネクターは必ずオス、メスを組合わせて端子（ピン）の保護をしてください。

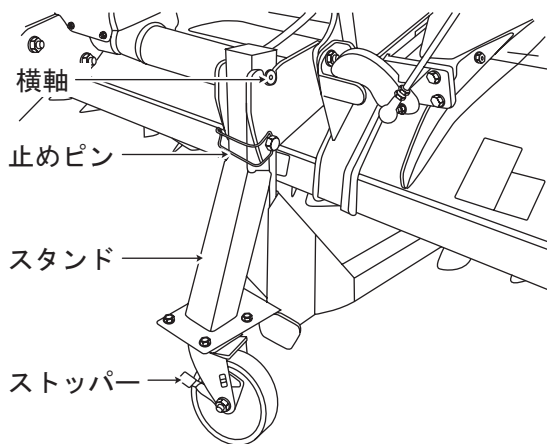
注 記

- ・ 電源ケーブルは、組合わせないでください。ショートして火災のおそれがあります。



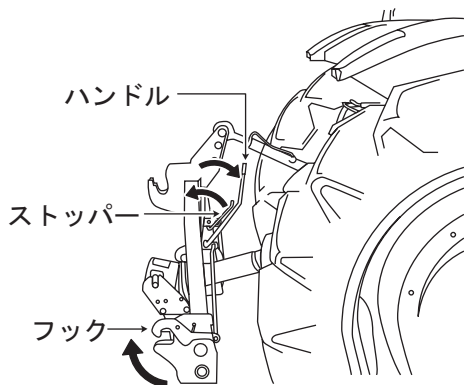


- 2** スタンドホルダーにスタンドの横軸を掛け、止めピンを挿して固定します。



◆4 セットの取外し方法

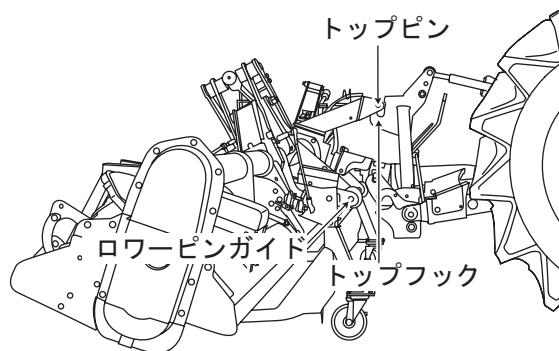
- 1** ストッパーを上げ、ロックを解除してからハンドルを下げて着脱の状態にします。



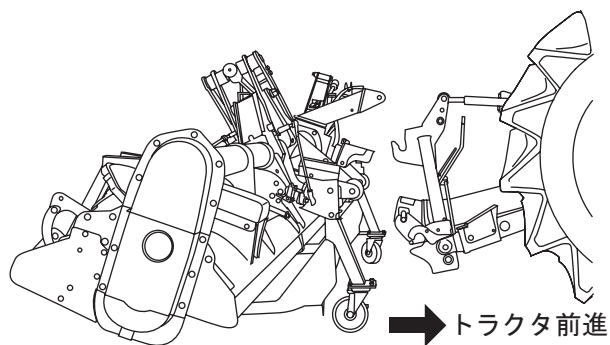
- 2** 作業機をゆっくり下げます。



- 3** カプラからローピンガイドが抜け、トップピンからトップフックが外れたのを確認します。



- 4** ゆっくりトラクタを前進させます。



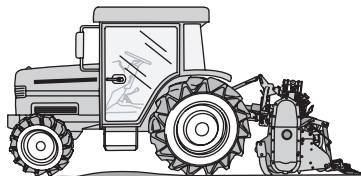
注 記

- 外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

⚠ 危険

取外したトラクタのPTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて傷害事故の原因になります。



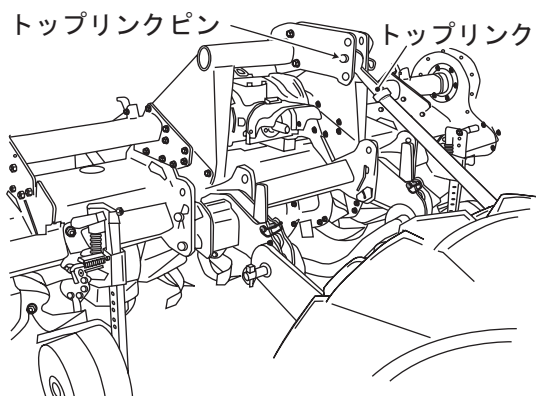
◆2 セットの取外し方法

注 記

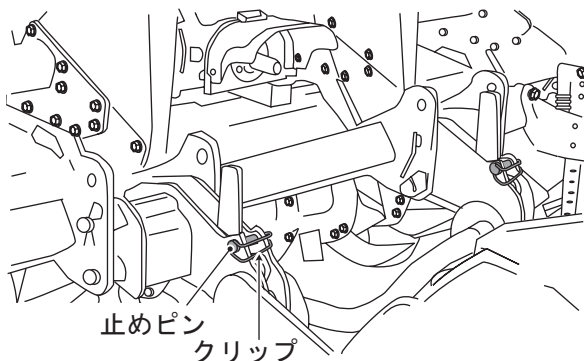
- ・「◆2 セットの場合」の作業機（イラスト）はロータリです。

1 取付けとは逆の手順で、ジョイントを取外します。

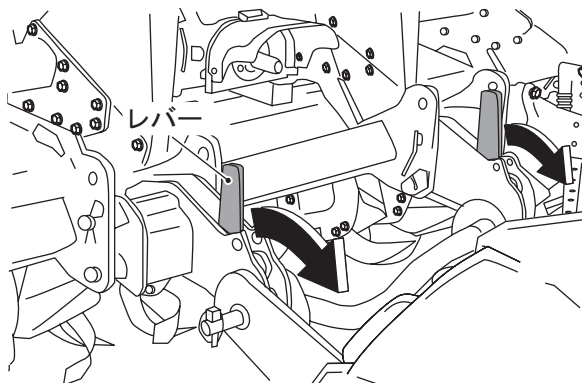
2 トップリンクピンを抜き、トラクタのトップリンクを作業機から取外します。



3 クリップを起こし、止めピン（2個）を取外します。



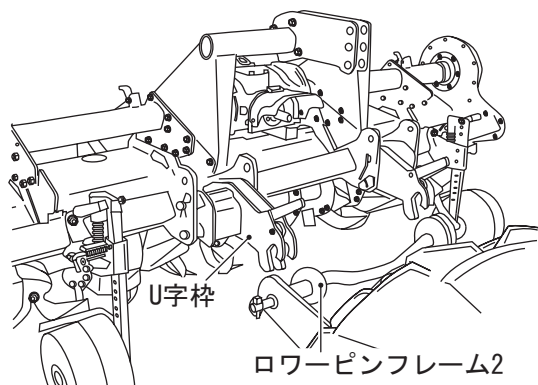
4 レバーを前方へ倒します。

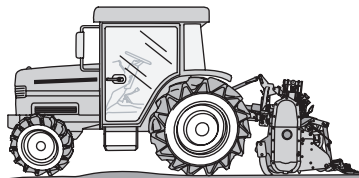


5 作業機をゆっくり下げます。



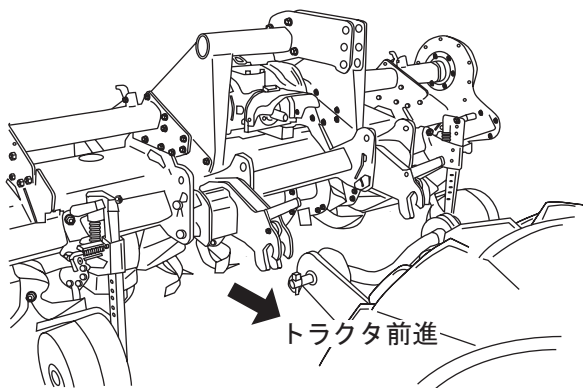
6 左右のU字枠からローピンフレーム2が外れます。





7

ゆっくりトラクタを前進させます。



注 記

- ・ 外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

⚠ 危険

取外したトラクタのPTO軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて傷害事故の原因になります。

10 保守・点検

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

⚠ 警告

- 点検・整備をするときは、交通の邪魔にならず安全なところを選んでください。作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で、トラクタの車輪には車止めをしてください。
- 点検・整備をするときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してから行ってください。
- 作業機の落下を防止するため、油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 爪や回転部分に草やワラ、土が付いたときは、必ずエンジンを停止させ、付着物を外してください。
- 機体の各部の変形や損傷等の異常を見つけたらすみやかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故の原因になります。

注意

- ・ スタンドを取付けた状態では、作業機をトラック等に積んでの移動は行わないでください。

スタンドが曲がるおそれがあります。

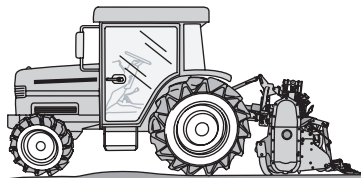
環境

- ・ オイルを排出するときは、必ず容器に受けてください。地面へのたれ流しや川への廃棄は絶対にしないでください。

使用済みのオイルをむやみに捨てると環境汚染になります。

- ・ 廃油・各種ゴム部品・交換済の各種部品等を捨てるときは、お買い求めの農協、販売店にご相談ください。

むやみに捨てると環境汚染になります。



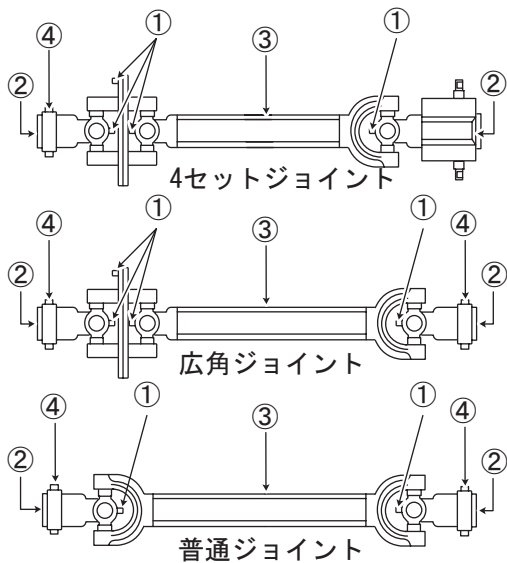
10.1 ボルト・ナットのゆるみ点検

本作業機は衝撃の激しい作業機です。使用時ごとに各部のボルト・ナット、特に爪取付けボルトを増締めしてください。新品の場合は、使用2時間後に必ず増締めをしてください。

特に爪ボルトは、早めの点検、増締めをお願いします。

10.2 ジョイントの給油

番号	給油箇所	給油時期
①	グリースニップル	使用時ごとにグリースを注入する。
②	ジョイントスプライン部	使用時ごとにグリースを塗る。
③	シャフト	シーズン後にグリースを塗る。
④	ロックピン	シーズン後に注油する。



注 記

- ・ ジョイントカバーにも、グリースニップルが左右1箇所ずつあります。グリースを注入してください。

10.3 オイル量の点検と交換

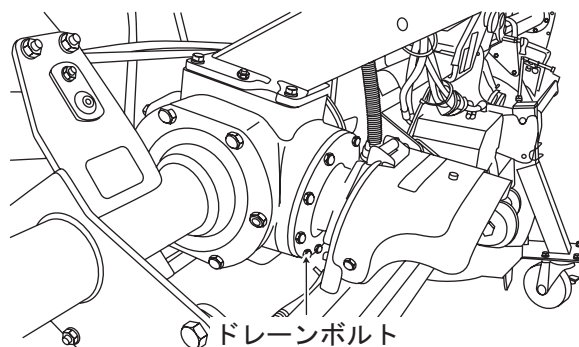
- (a) オイル量の点検
チェーンケースを垂直にして、各部のオイル量を点検してください。不足の場合はギヤオイル#90を補給してください。
- (b) オイル交換
工場出荷時には給油してありますので、初回の交換まではそのまま使用してください。

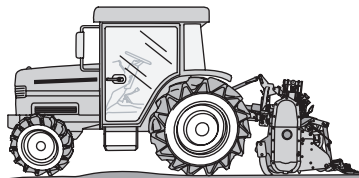
給油・オイル交換は、下記の通り実施してください。

給油箇所	オイルの種類	油量	オイル交換の時間	
			1回目	2回目
ミッションフレーム	ギヤオイル#90	1.5 l	30時間	シーズン後
チェーンケース	ギヤオイル#90	1.0 l	30時間	シーズン後
爪軸軸受部	ギヤオイル#90	60cc	30時間	シーズン後
開閉支点	グリース	適量	シーズン後	
ロック・リンク部	グリース	適量	8時間毎	
クロスジョイント	グリース	適量	作業毎 ジョイント 取扱説明書参照	

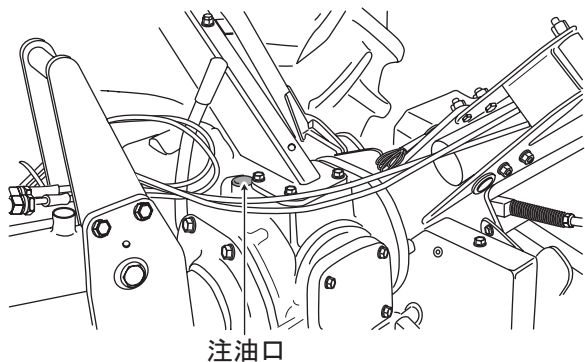
◆ミッションケース

- 1 ドレーンボルトを外して、オイルを排出します。





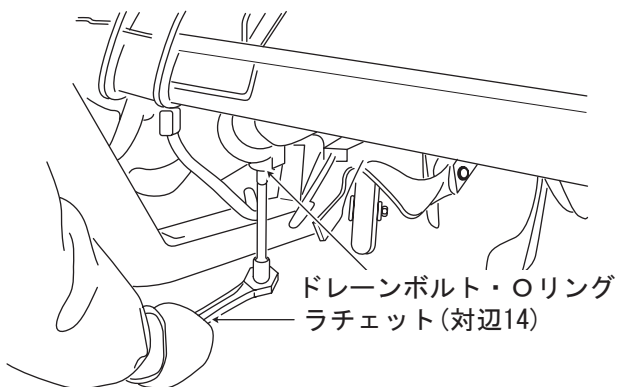
- 2** ミッションケース上の注油口から、オイルを規定量給油します。



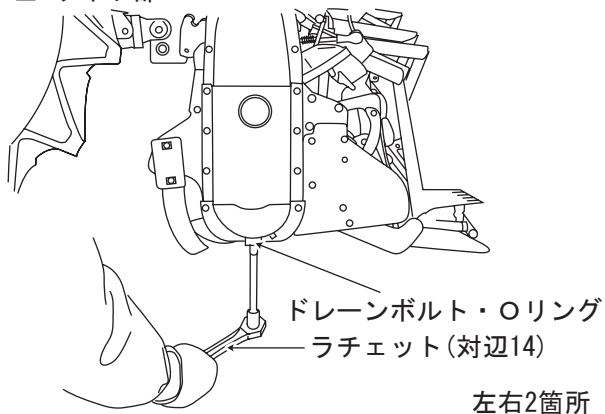
◆チェーンケース

- 1** ラチェット（対辺14）でドレーンボルト・Oリングを外して、オイルを排出します。

■ センター部

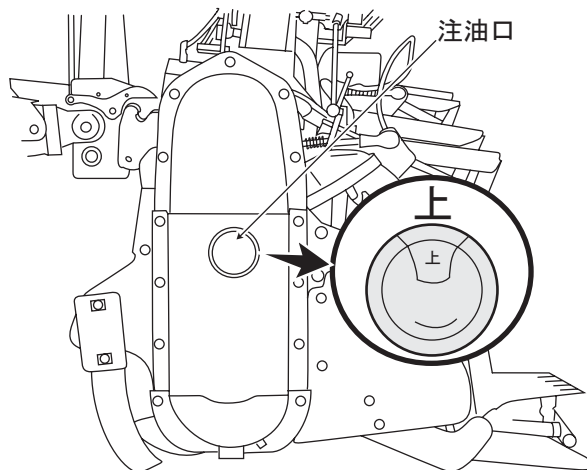


■ サイド部



- 2** オイルを排出後は、ドレーンボルト・Oリングを必ず取付けてください。

- 3** チェーンケースの注油口から、オイルを規定量給油してください。



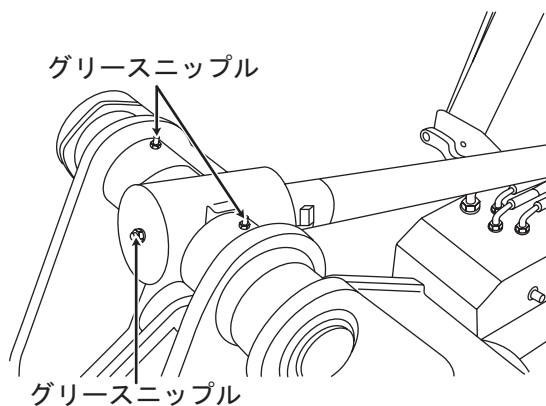
注 記

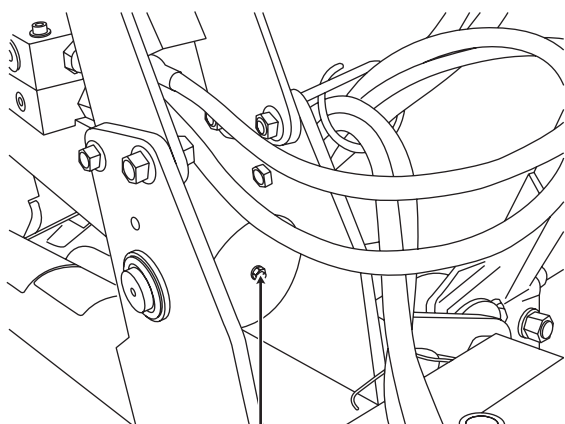
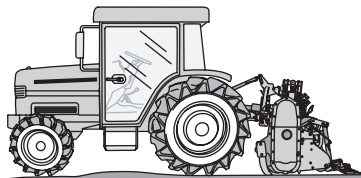
- 給油後、ドレーンボルトからオイルが漏れる場合は、Oリングの交換が必要な場合があります。

10.4 グリースの補充

各所にグリースニップルがあります。グリースを注入してください。また、支点ピンの廻りに、可動部が数ヶ所あります。グリースを塗布してください。

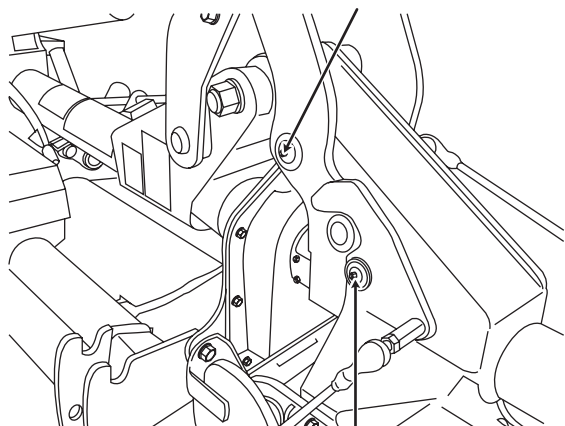
作業前、または8時間ごとに点検・補充してください。





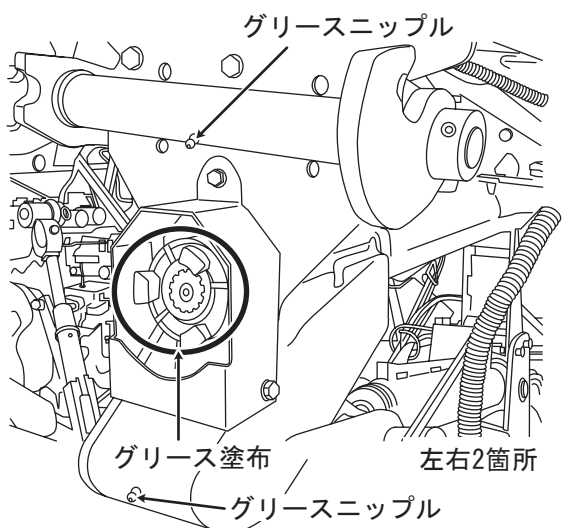
グリースニップル

グリースニップル (前後にあり)



グリースニップル

■ サイド部 (折りたたみ時)



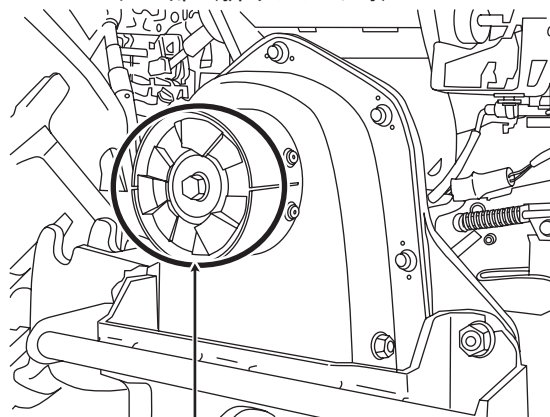
グリースニップル

グリース塗布

左右2箇所

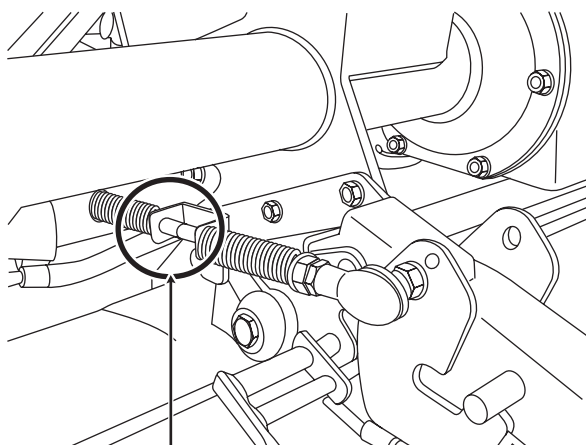
グリースニップル

■ センター部 (折りたたみ時)

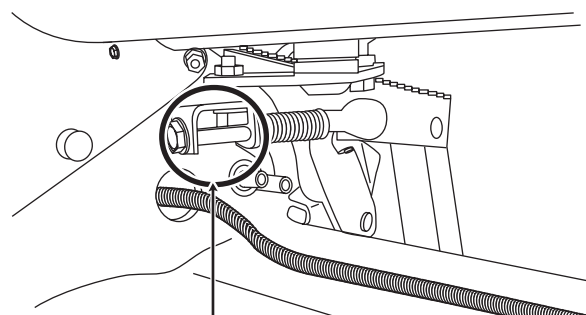


グリース塗布

左右2箇所

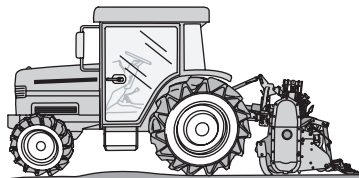


グリース塗布



グリース塗布

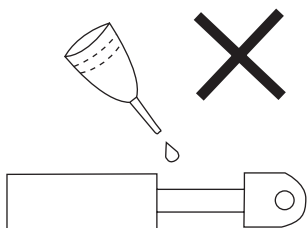
左右2箇所



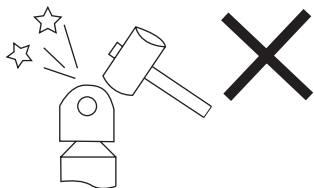
10.5 ガスプリングの取扱い

10.5.1 取扱上の注意

- (a) ガスプリングの伸縮部に注油しないでください。注油するとシールの耐久性をなくし、油もれの原因となります。



- (b) 衝撃を加えることは絶対にしないでください。油もれ、作動不良、破損の原因になります。



- (c) 分解を絶対にしないでください。高圧ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。

10.5.2 廃却方法

⚠ 危険

- 押しつぶしたり、切断はしないでください。
- 図以外の場所には穴を開けないでください。
- 火に投入しないでください。

【守らないと】ガスプリングには、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発により傷害事故の原因になります。

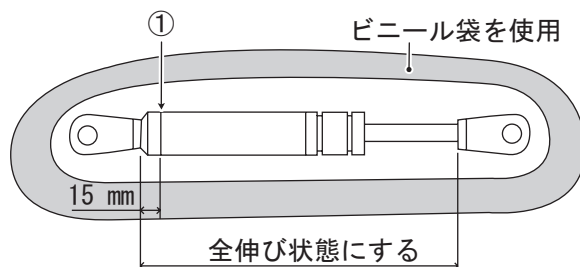
◆ 廃却手順

注 記

- ・ 穴を開ける時は、必ず①②の順番を守ってください。
- ・ ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので十分注意してください。
- ・ メガネをかけて作業してください。

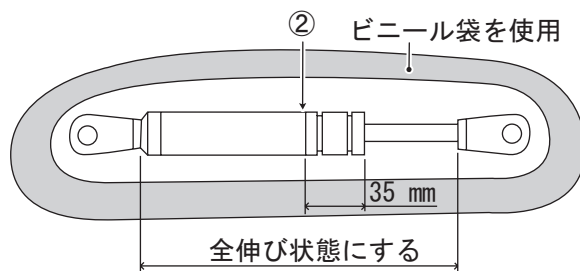
1

ビニール袋に入れて、その上から2~3mmのドリルで①に穴を開けてください。



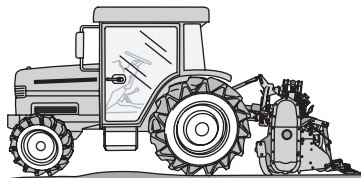
2

ガス・油を抜いた後②の穴を開けてください。



3

ガスプリングを廃却します。



10.6 代かき爪について

⚠ 警告

- 爪を取付けるときは、平らで固い場所を選び、駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にして、エンジンを停止してください。
 - ウィングハローの落下を防止するため、油圧ストップバルブを完全に「閉め」てロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故の原因になります。

注 記

- ・ 代かき爪の交換は、一度に全部外してしまうと配列を間違えやすくなります。1本ずつ外して、同じものを取付けてください。

◆代かき爪の種類と本数

爪の種類は直爪・曲り爪の各L・Rの4種類があります。刻印があるので、それで判別してください。

型式	刻印				合計
	E205LG 黒爪 E205148000	E205RG 黒爪 E205149000	E205BLG 青爪 E205150000	E205BRG 青爪 E205151000	
WLS4200BR	48	48	3	3	102
WLS5000BR	60	60	3	3	126
WLS5500BR	66	66	3	3	138

10.7 代かき爪の交換

⚠ 注意

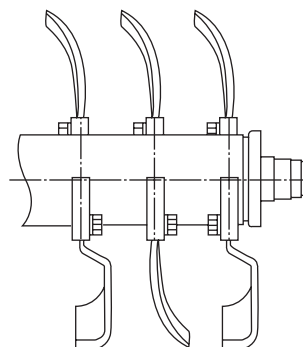
摩耗部分は鋭利になっています。必ず手袋をして作業してください。

【守らないと】傷害事故につながります。

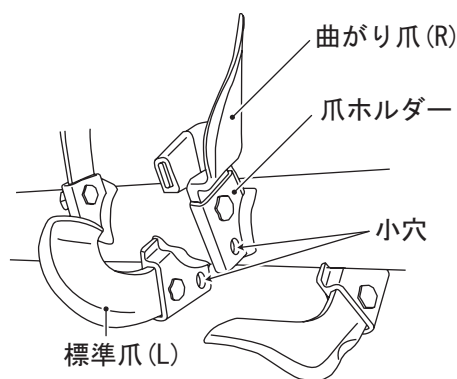
◆取付方法

爪を取付けているホルダーの片側が、6角穴になっています。6角穴の方からボルトを入れてください。ばね座金、ナットを取付けメガネレンチで確実に締付けてください。

参考図

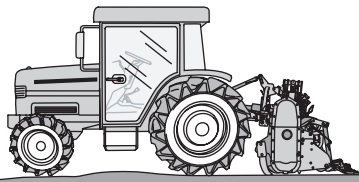


◆配列方法

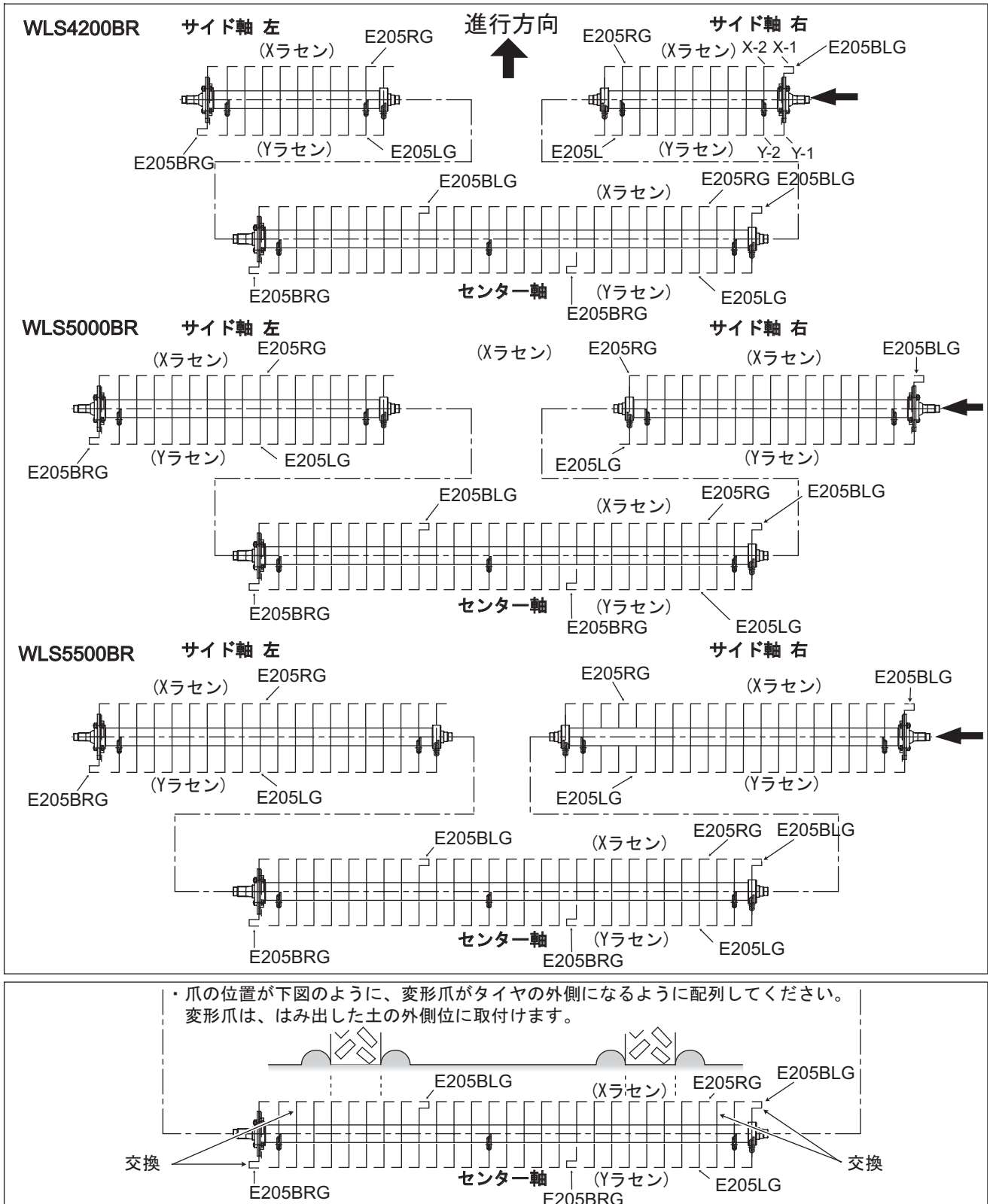


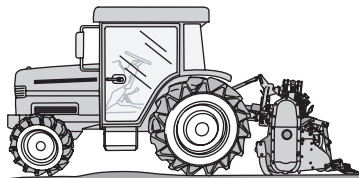
注 記

- ・ 爪ホルダーの小穴は片側のみにあります。
 - ・ 代かき爪軸の両端（6ヶ所）は目印の小穴がありません。取付いていた爪と同じ物と交換してください。
- ① 標準爪は、爪ホルダーにある小穴の方へ、つめの曲がり（先端）が向くように取付けます。
 - ② 曲がり爪は、爪ホルダーに小穴の無い方へ爪の曲がり（先端）が向くように取付けます。
 - ③ 型式別の爪の配列は、次項を参照してください。



10.8 代かき爪配列図



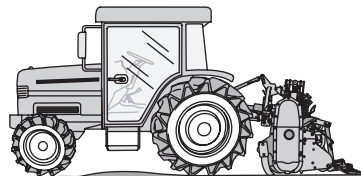


10.9 点検整備チェックリスト

時間	項目
新品使用始め	① ミッションケースのオイルの量点検
	② チェーンケースのオイルの量点検
新品使用 2 時間	① ボルト・ナットの増締め
新品使用 30 時間	① ミッションケースのオイル交換
	② チェーンケースのオイル交換
使用前	① 代かき爪の取付ボルト増締め
	② ミッションケースのオイル量、オイルもれ点検
	③ ジョイントのグリースニップルへグリース注入
	④ 地面から上げて回転させ、異音異常のチェック
使用后	① きれいに洗い、水分をふきとる
	② ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落チェック
	③ 耕うん爪、ガード等の摩耗、折れチェック
	④ 入力軸へグリース塗布
	⑤ 折りたたみ支点のグリースニップルへグリースを注入
	⑥ ジョイント、スプライン部へグリース塗布
	⑦ ジョイント、ロックピンへ注油
	⑧ 動く部分へ注油およびグリース塗布
シーズン終了後	① ミッションケースのオイル交換、オイルもれ点検
	② ブランケット軸受部のオイル交換、オイルもれ点検
	③ 折りたたみ支点のグリースニップルへグリースを注入
	④ ジョイントのシャフトへグリース塗付
	⑤ 無塗装部へサビ止め
	⑥ 消耗品は早めに交換

※ 機体の各部の変形、損傷等の異常を見つけたら、速やかに修理してください。

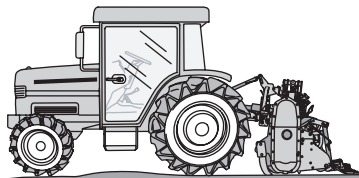
なお、お客様でできない作業項目は、購入された農協、販売店等へお問合せください。



10.10 異常と処置一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合は、再使用せずにすぐに次の処置をしてください。

部位	症状	原因	処置
代かき軸	異音の発生	軸受ベアリングの異常	ベアリング交換
		爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締付
	振動の発生	代かき軸の曲がり	代かき軸交換
		代かき爪の配列間違い	爪配列のチェック
	軸が回らない	チェーンの切れ	チェーン交換
		駆動軸の切れ	駆動軸交換
	オイルもれ	オイルシールの異常	オイルシール交換
残耕ができる	代かき爪の摩耗、折れ	代かき爪交換	
土が寄らない	代かき爪の配列間違い	爪配列のチェック	
ミッションケース・チェーンケース	異音の発生	チェーンタイトナーの破損	タイトナー交換
		ベアリングの異常	ベアリング交換
		ギヤの損傷	ギヤ交換（ベベルギヤの交換は組合せでお願いします。）
		スプロケットの損傷	スプロケットの交換
		ベベルギヤのカミ合い異常	シムで調整
	オイルもれ	オイルシールの切れ	オイルシール交換
		パッキンの切れ	パッキン交換
		パッキン剤の劣化	パッキン剤塗り直し
		ベベルケースの締付ボルトのゆるみ	ボルト増締め
熱の発生	オイル量不足	オイル補給	
ジョイント	異音の発生	グリース量不足	グリース注入
	ジョイント鳴り	ジョイント折れ角が不適切	前後角度姿勢の調整
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	たわむ	シャフトのカミ合い幅不足	長いものと交換
スプライン部のガタ	ロックピンとヨークの摩耗	すぐに交換	
	土引き状態にならない	土引きカムのグリース切れ	マストのカムにグリース塗付
	スイッチは ON になるが、開閉等が動作しない	バッテリーターミナルの接触不良	バッテリーターミナルの清掃



11 格納について

⚠ 警告

- 格納庫には子供を近づけないでください。
- 格納は、雨や風があたらず、平らで固い場所を選んでください。
- 作業機の格納は折りたたんだ状態でスタンドを必ず付け、転倒を防止してください。
- カプラ・ジョイントは作業機から外して、地面に置いてください。特にジョイントは、ほこり等の付かない所に格納してください。

【守らないと】作業機が転倒し傷害事故や作業機の損傷につながります。

格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 作業機はきれいに清掃し、塗装のできない入力軸・ジョイントのスプラインには必ずサビ止めのために、グリースを塗ってください。
- (2) 作業機はスタンドを取付け、転倒を防止してください。
ストッパー付キャスターは、ストッパーをロックして転がりを防止してください。
- (3) 格納はできる限り屋内にしてください。

12 保証とサービスについて

12.1 保証について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

12.2 アフターサービスについて

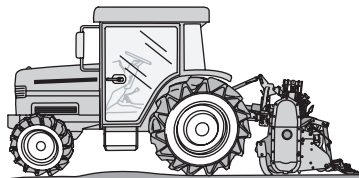
作業機の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し点検してください。
点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた販売店・農協までご連絡ください。

●ご連絡いただきたい内容

● 型式名と製造番号	ネームプレートを見てください(7ページを参照)
● ご使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・水田ですか？ ・ほ場の条件は石が多いですか？ 強粘土ですか？ ・トラクタは何馬力ですか？ ・トラクタの速度は？ ・PTOの回転数は？
● どのくらい使用されましたか？	・約□□アール または□□時間
● 不具合が発生したときの状況をなるべく、くわしく教えてください。	

12.3 補修部品と供給年限について

- 補修部品は、純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や性能に影響する場合があります。
- この作業機の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期等ご相談させていただく場合があります。



13 用語と解説

アタッチメント

作業機に後付けする製品

オート装置

作業機の均平板の動きをセンサで感知して、トラクタに電気または機械信号で伝え、トラクタの油圧を自動的に作動させ、作業深さを一定に規制する装置

オートヒッチ、カプラ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

オートパワーオフ機構

電源を切り忘れても、8時間後自動的に電源が切れる機構

クリーブ(速度)

超低速の作業速度

耕うん爪取付方法

1 フランジタイプ

耕うん軸の板(フランジ)に、耕うん爪1本に対して、ボルト2本(組ボルトは1個)で取付ける方法

2 ホルダータイプ

耕うん軸のホルダー(ブラケット)に、耕うん爪を差し込んで、ボルト1本で取付ける方法

耕深

耕うんする深さ

コネクター

コードとコードとをつなぐ接続口

サーキットブレーカ

電流が設定値より過大になると回路を遮断するもので、一時的に回路の損傷を防ぎます

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ターンバックル

トップリンクの短い物(長さの調節ができる)

ダッシング

耕うん爪の回転でトラクタが前に押され飛び出すこと

チェックチェーン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

ハイリフト(ニプロロータリー 10シリーズ)

フレームパイプの連結ロット取付位置と、均平板下部の頭付ピンが取付けてある位置を、連結ロットでつなぎ、均平板をはね上げる事(はね上げの方法は、均平板の調整の項参照)

ブラケット側

チェーンケースの反対の軸受側

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

ミニモーション

電気(バッテリー)を利用して、モータで油圧ポンプを作動させ、シリンダを伸縮させる装置

メカニカルロック

機械的に固定する

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロワーリンクと連結しているアーム

リリース状態(音)

油圧シリンダが最縮および最長時、これ以上伸び縮みできないときに音が変わったとき

リリース弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロワーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

<http://www.niplo.co.jp>

Niplo 松山株式会社

- 本社 〒386-0497
長野県上田市塩川5155
Tel.(0268)42-7500
Fax.(0268)42-7556
- 物流センター 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel.(0268)36-4111
Fax.(0268)36-3335
- 北海道営業所 〒068-0111
北海道岩見沢市栗沢町由良194-5
Tel.(0126)45-4000
Fax.(0126)45-4516
- 旭川出張所 〒079-8451
北海道旭川市永山北1条8丁目32
Tel.(0166)46-2505
Fax.(0166)46-2501
- 帯広出張所 〒082-0004
北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
Tel.(0155)62-5370
Fax.(0155)62-5373
- 東北営業所 〒989-6228
宮城県大崎市古川清水3丁目石田24番11
Tel.(0229)26-5651
Fax.(0229)26-5655
- 関東営業所 〒329-4411
栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
Tel.(0282)45-1226
Fax.(0282)44-0050
- 長野営業所 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel.(0268)35-0323
Fax.(0268)36-4787
- 岡山営業所 〒708-1104
岡山県津山市綾部1764-2
Tel.(0868)29-1180
Fax.(0868)29-1325
- 九州営業所 〒869-0416
熊本県宇土市松山町1134-10
Tel.(0964)24-5777
Fax.(0964)22-6775
- 南九州出張所 〒885-0074
宮崎県都城市甲斐元町3389-1
Tel.(0986)24-6412
Fax.(0986)25-7044

